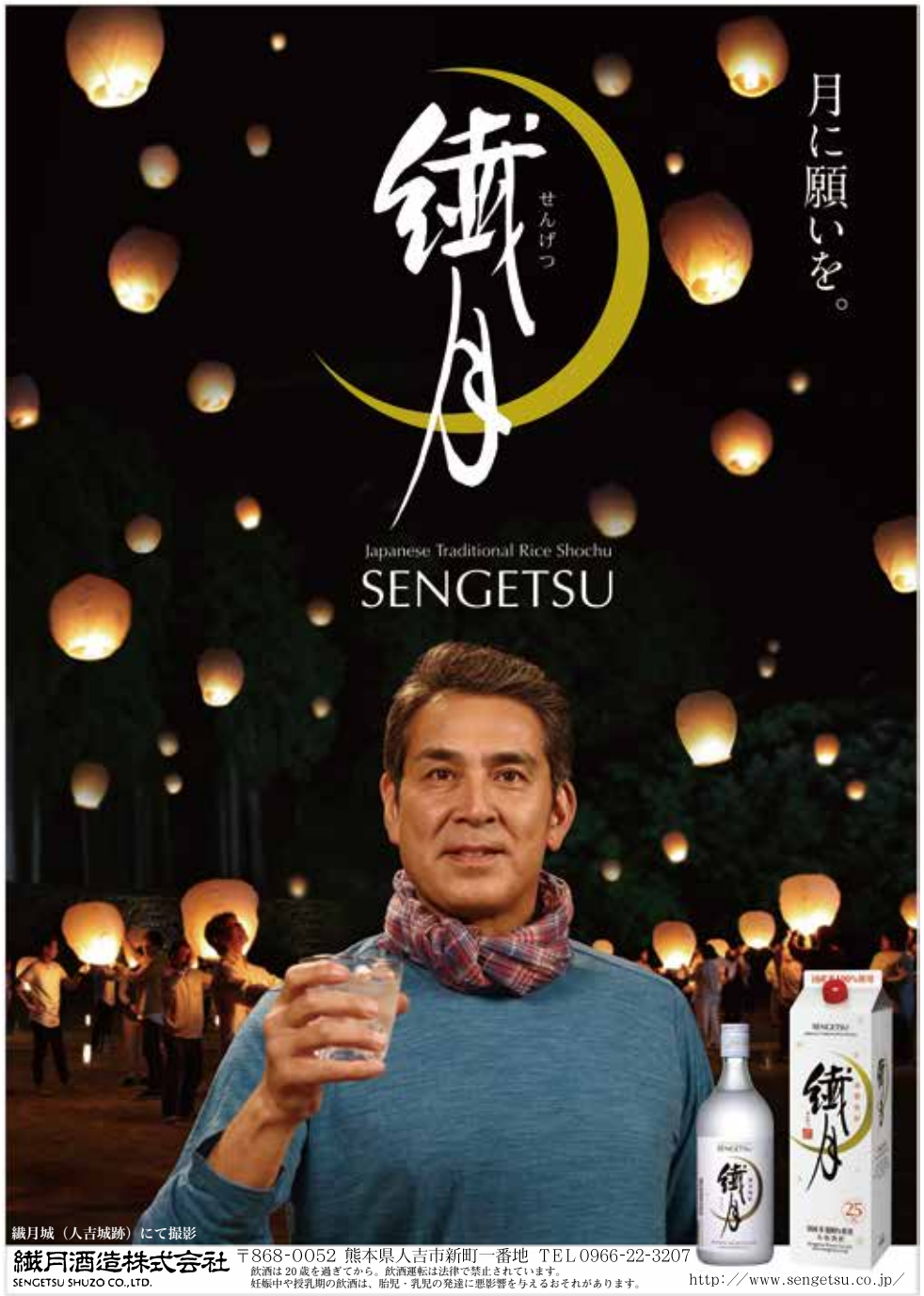
月刊くまがわ春秋 第11号 2017年2月15日発行
企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0086 熊本県人吉市下原田町瓜生田675-3 TEL 0966-22-7601 ／ FAX 0966-22-7601
http://www.hitoyoshi.co.jp/ info@hitoyoshi.co.jp
定価540円 本体500円



雑誌 81779-02-7
4910817790277
00500

流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2017 2 第11号

新連載 くまがわ野鳥だより

球磨川の「カワセミ」© 小川 一弥

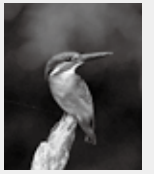
今月の一言　『文読む月日』（レフ・トルストイ編著　北御門二郎訳）より

何を考えなくてもいいかを知ることは、何を考えなければならないかを知ることよりも、むしろ大事なくらいである。

表紙写真

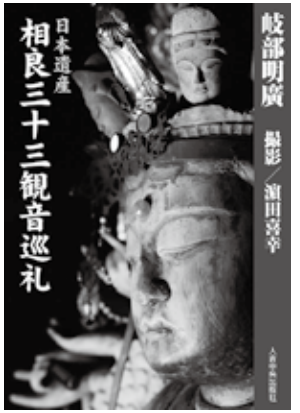
球磨川の「カワセミ」球磨村渡で撮る。

撮影　小川一弥（球磨村）



さあ、巡礼の旅に出よう。

相良三十三観音と人吉球磨の「日本遺産」を熱く語ったずしりと重いガイドブック



■A5判／上製／400頁
■定価2,100円（税込）　送料200円

〒868-0086
熊本県人吉市下原田町瓜生田675-3
TEL・FAX0966-22-7601

人吉中央出版社　info@hitoyoshi.co.jp

北御門 二郎・訳

トルストイ短編集

帝政ロシア時代の物語を北御門二郎の「心訳」で贈る現代人へのメッセージ

新たに編集された「カフカーズの捕虜」「神は真実を見そなわす」「舞踏会の後」「壷のアリョーシャ」「贋造クーポン」の5本を収録

■A5判／並製本／192頁
■定価1,500円（+税）
送料100円

レフ・トルストイ／作
北御門 二郎／訳
表紙絵／田口宏昭
北御門すすぐ・たえ子／編

発行元：人吉中央出版社

— 2月（第11号）目次 —

カラーページ

くまがわ野鳥だより①小川 一弥／4
ほいくの絵⑩「サン保育園」／6
石橋を訪ねる③「重盤岩眼鏡橋」／7
駅・ものがたり⑪「那良口駅」松本晉一／10

定吉が行く⑪「熊本地震と吉組」鳥飼 博／16
くまがわ狂句　村上鬼拳／20
昭和の写真館⑧「親子」東儀一郎／21
今月の詩　⑪「感じること」／22
「オールドローズ・ツクシイバラ」遠山 令二／23
記憶の落ち穂⑪坂本福治／27
くまがわすじの考古地誌⑥　木﨑康弘／28
あがっ段⑨「届け、園児の願い」上杉芳野／32
医食同源⑦「食と情緒」浦川春加／34
柳人があじわう漱石俳句⑪　いわさき楊子／36
「人吉高校五回生同期会の歴史」瀬戸致行／37
戦後の球磨郡で②　片岡 和紘／39
建築みてある記　森山　学／42
「女乞食」と共同体①／47
くまがわの神さん仏さん⑨　宮原信晃／49
方言を味わう⑧　前田一洋／52
荒瀬ダム撤去経過報告　つる詳子／54
瀬戸石ダムと流域の課題　内田次一／58
防衛活動　久馬　俊／61
「資料発掘」荒瀬ダム関係①／62
木造市庁舎を希望する理由　松本晉一／64
外来語から学ぶ英単語⑪　藤原　宏／68
鶺鴒短歌会／69
不知火海の自然・生活⑥　つる詳子／70
いもご短歌会／74
東京オリンピック⑩　苅田吉富／75
舟止め事件／76
倉敷便り②　原田 正史／78
椿木のおばちゃん　上村雄一／80
マイ・文庫本　白城松男／81
字遊空間②　平岡優平／82
「疑わしきは罰せず」を疑う　上村雄一／85
字図で見る球磨の地名⑩　上村重次／87
山に行こうよ！④／90
くまがわ学習塾②／92

巻頭言　地方自治の本旨

憲法第92条は、地方自治はその本旨にしたがって実施されるべき旨を定めている。明治憲法になかった規定である。明治憲法下では、地方自治体は国の機関であった。知事は政府によって任命されていた。国は権力を独占していた。新憲法は、地方自治は地方の住民が自治的に実施すべきであるとして、それまで国が独占していた権力を地方自治体に分権した。新憲法は権力を立法、行政、司法の間で分立させるとともに、中央と地方の間でも権力が分立されることを原則にしている。自分たちのことは自分たちで決めるとする自己決定の原理が基礎にある。地方は金太郎飴ではない。地勢・地理・歴史にしたがってそれぞれに個性をもつ。その個性は住民が自分たちの選択を通じて創造されていく。多様な個性の自治体が存在するとき、日本全体も豊かになる。それは、多様な生物が存在するとき自然が豊かになるのと同一だ。

地方自治体の首長、議会も金太郎飴ではない。同一規模の場合、自治体は個性を失い、同一の姿になる傾向があるとの指摘がある。その指摘が事実であるか否かは検証すべき課題であるけれども、自治体は本来、他の自治体とちがうようにつくられていくべきである。同一の姿をすべての自治体が志向するならば地方自治の本旨は失われる。国は、地方自治体の個性を尊重しなければならない。

近年、自治体の選挙で、「中央とのパイプの太さ」を「政策」として宣伝する首長候補、議員候補が目立つ。「中央とのパイプ」は政策ではない。国は地方自治体の下請機関でなく、地方自治体は国の下請機関ではなく、「パイプ」論はつまるところ地方自治の歪曲である。原理的に誤っているだけでなく、実務的には存在しないものをあるという詭弁である。地方分権推進法第4条はそのような法律である。

今年5月、憲法は施行70周年をむかえる。私たちは、地方自治の本旨にしたがって球磨川流域の活性化を目指したい。地方自治は「民主主義の学校」であり、かぎりなく、大切である。

（編集部）

最近のおもな出来事

1月14日（土）
▽奥球磨どんぶりフェア2017（～3月19日）
15日（日）
▽必勝合格祈願の旅　合格勝ち取りツアー（球磨村二勝地駅～）
▽第5回「公認奥球磨ロードレース大会」（水上中学校～同役場）
16日（月）
▽人吉球磨さわやか大学1月定例講義（人吉市総合福祉センター）
19日（木）
▽鶴田一郎　新作原画・版画展（～24日、ひとよし森のホール）
21日（土）
▽熊本県少年サッカー選手権大会（～22日、人吉市第二市民運動広場）
22日（日）
▽TAO「残響―踊る太鼓」人吉公演（同カルチャーパレス）
▽「新春・七つの蔵の利き酒と味まつり」（多良木町交流館石倉）
28日（土）
▽あさぎり町健康ウオーキング大会（旧上村役場集合）
29日（日）
▽人吉商工会議所創立70周年記念植樹（MOZOCAステーション）・記念式典（カルチャーパレス）・祝賀会（あゆの里）
▽第9回おどんな日本一武道大会（人吉スポーツパレス）
▽熊本県少年サッカー選手権大会（人吉市第二市民運動広場）
2月1日（水）
▽「人吉球磨は、ひなまつり」スタート（～3月20日）
2月3日（金）
▽冬季特別展覧会「笠鉾大解剖Ⅱ～しゃれた町印・本蝶無～」（～3月20日、八代市立未来の森ミュージアム）
2月11日（土）
▽「現代国際巨匠チャリティー絵画展」（13日～、ホテルサン人吉）

ひろしの…　げっかん・ぎひょう

―18年ぶり、待ちにまった日本人横綱誕生―

「昨年は最多勝に輝きながら初優勝を逃す。今年は努力と気合いで遅咲きの横綱昇進。おめでとう稀勢の里。三月の春場所が楽しみ」

ヤマセミ

山翡翠　Megaceryle lugubris

身近な球磨川のヤマセミ①

撮影／小川 一弥

通常は山深い渓流に棲むヤマセミだが、市街地からでも観察できるのが球磨川のヤマセミの特長だ。

ヤマセミは全長約38㎝くらいの留鳥で、日本のカワセミ類のなかで最大。黒と白の模様が特徴的で、頭に冠羽がある。オスは胸に茶色が混じり、メスは翼の裏側が茶色。魚が大好物でアユ、オイカワ、ハヤなど清流の魚をねらう。

高いことろから魚を狙う

繁殖期は2月から4月頃で、雄が雌に魚を口移しにやり雌が魚を受け取ったら交尾となる。警戒している時には、冠羽を立て「キキッ」と甲高い声で鳴き、白黒鹿の子模様から、カノコショウビンと呼ばれることも。この写真が撮られた球磨村渡付近では、住宅地のすぐそばでも見ることができる。

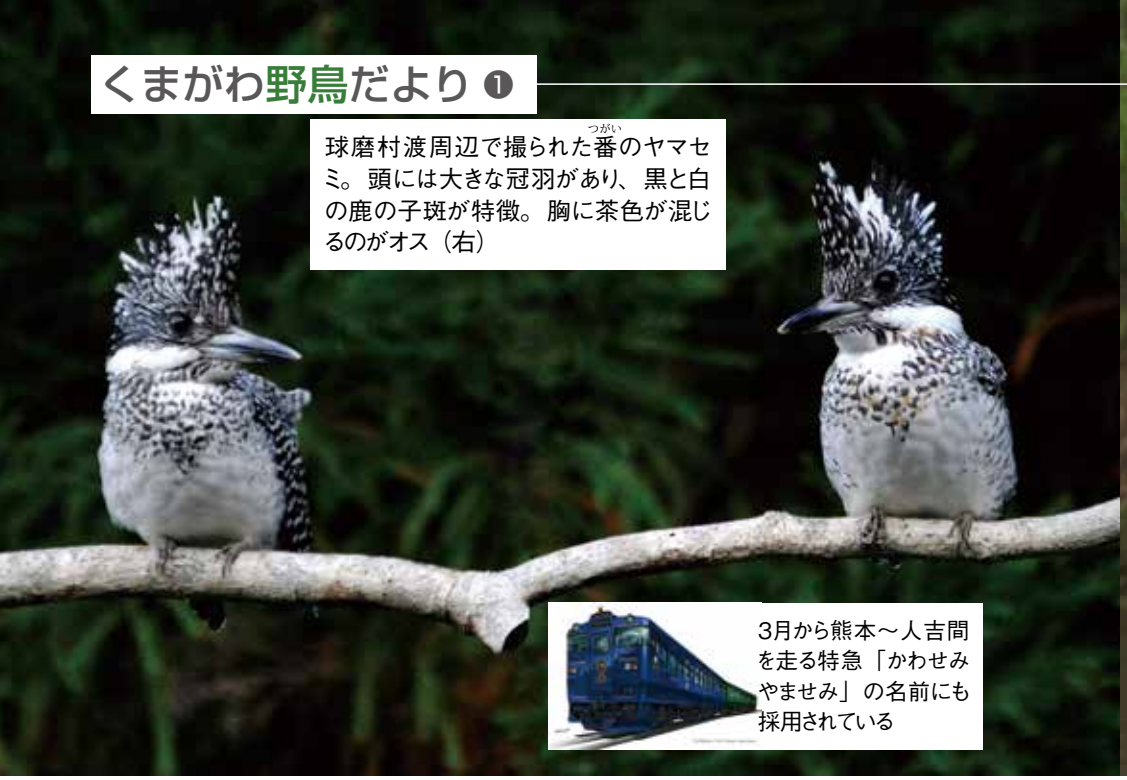
なぜ上流域に多いのか?

八代市の遥拝堰などでも見られるが、球磨村や人吉など上流に上るほど個体数が増えると専門家は言う。

温泉のある地域は地熱のために霧が発生しやすく、コケが多く生えるため水中プランクトンが多くなる。これを餌とする魚はそこに集まり、ヤマセミはこの豊富な魚を狙って住み着くという。巣は砂地の壁に穴を掘って作り、そこで子育てをし、巣立ちの時期を待つ。

ヤマセミは魚獲りの名人でもある

くまがわ野鳥だより ❶



球磨村渡周辺で撮られた番のヤマセミ。頭には大きな冠羽があり、黒と白の鹿の子斑が特徴。胸に茶色が混じるのがオス（右）

3月から熊本～人吉間を走る特急「かわせみやませみ」の名前にも採用されている

このように魚が豊富でシラス台地が多い環境があることから、球磨川上流や川辺川に多く生息しているのではないかと、分析されている。

いつも番で行動する おしどり夫婦

非常に警戒心の強い野鳥であるヤマセミだが、人吉市付近の市街地では間近でこの番の様子を観察することができる。

動きだすのは早朝からで、縄張りとする木の上や岩場から魚を狙う。水面上空からホバリングしたり水中へダイブするなど魚獲りの名人でもある。

つねに番で行動するヤマセミの夫婦は、基本的に一生添い遂げるという。

（関連記事94頁）

【撮影／小川一弥、球磨郡球磨村、全日写連・熊日フォトサークル会員、受賞作品多数】

シリーズ ほいくのなかで描いた絵⑩

サン保育園（球磨郡錦町）

「共に育つ」を保育理念に、お子様方一人ひとりの小さな心を大切にし、音楽を通した情操教育など様々な活動を体験しながら、お子様方の心身ともに健やかな成長のお手伝いに努めています。

「まめまき」
今田唯花ちゃん（5歳）

社会福祉法人　堀の口福祉会「サン保育園」
球磨郡錦町西18番地
定員：70人　電話 0966-38-2037
開園時間：午前7時00分～午後7時00分
（延長保育時間含む）

「重盤岩眼鏡橋」熊本県指定重要文化財（昭和49年11月19日指定）

石橋を訪ねる③

重盤岩眼鏡橋

葦北郡津奈木町岩城435

津奈木町の中心部を流れる津奈木川にかかる。総庄屋「江藤三郎左衛門為経」らの出資により嘉永二年（1849）に架けられた。ここは地域の主要道路で、薩摩街道の一部でもある。石橋作りの名手として知られた種山石工の棟梁岩永三五郎にゆかりのある石工（※注）の手によるものと伝わる。町内に九つ残る石橋の中で最も大きく、堂々たる姿から橋の近くにそびえる大岩・重盤岩にちなんでその名が付けられた。

※注　三五郎の弟の三平とする説もある。

石材は凝灰岩。橋長18メートル、橋幅4・5メートル。アーチは緩やかで重厚な中にも優美さを感じさせる。欄干の柱にもさりげない意匠がほどこされ、石工の技巧がしのばれる。

石工の技巧がしのばれる欄干の意匠

橋の北側にはゴツゴツとした岩山が広がっている。山頂近くにそそり立ちひときわ目を引く大岩が、橋名の由来になった「重盤岩」である。岩の頂上には今上天皇のご誕生を祝して作られた掲揚台があり、日の丸がはためいている。

「舞鶴城公園」に向かう石段

山頂近くにそそり立つ「重盤岩」

この辺りはかつて津奈木城があった場所であり、現在は展望所や遊歩道、モノレールを整備し、城の別名にちなんで「舞鶴城公園」となっている。展望所からは津奈木の町が一望でき、特に不知火海に沈む夕日の美しさは格別。岩肌を縫うように作られた遊歩道を渡って重盤岩の頂上近くにも行け、はるか昔に噴出したマグマが冷えて固まったという高さ80メートルの奇岩を間近に見られる。

舞鶴城公園に上るモノレールには、川を挟んで向かいにある「つなぎ美術館」の二階にある発着場から乗ることができる。片道およそ5分。初夏の新緑、秋には紅葉が楽しめる。また、公園のふもとには「つなぎ温泉四季彩」もある。舞鶴城公園のある山腹の中ほどに展望露天風呂があり、岩山をくりぬいたトンネルを通ってモノレールで行くユニークな温泉施設だ。舞鶴城公園や重盤岩眼鏡橋、つなぎ温泉四季彩、つなぎ美術館は、津奈木町の文化と観光の中心となっている。

津奈木の町が一望できる「舞鶴城公園」の展望所

重盤岩は、平成28年3月に「日本の奇岩百景」に登録された（日本の奇岩百景選定・編集委員会が選定）。

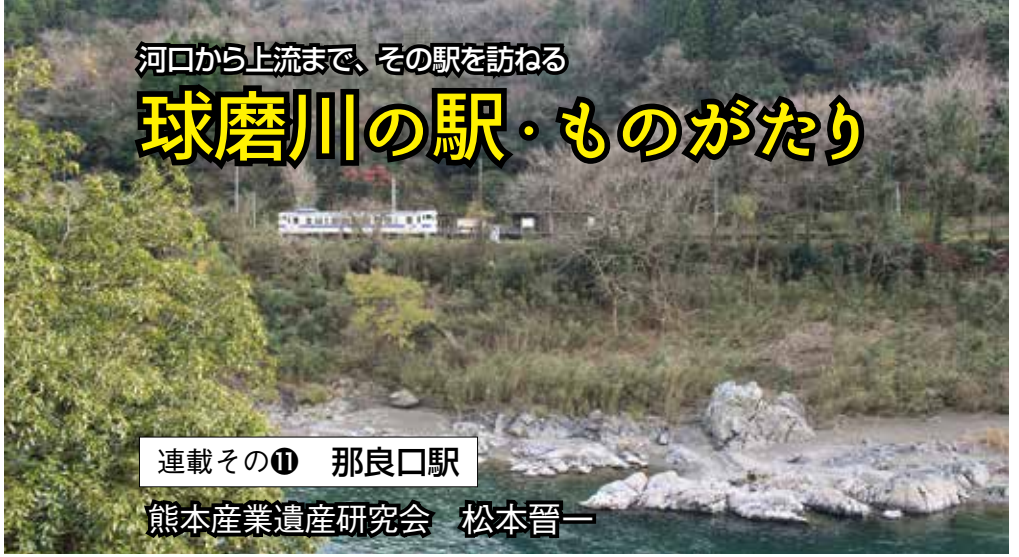
種山石工について

江戸時代後期に九州各地で石橋建設に活躍した肥後八代郡種山村（現在の八代市東陽町）の石工の技術者集団。長崎から西洋伝来のアーチ式石橋づくりの技術を持ち込んだ藤原林七が祖と伝わる。種山石工の棟梁としては、石橋造りの腕を買われ薩摩藩に招かれて日本初の多連式アーチ橋である「甲突川五橋」など36基もの石橋を架けた岩永三五郎や、霊台橋や通潤橋を築いたことで知られる橋本勘五郎などが有名。

三五郎の生家（八代市東陽町種山）

八代市東陽町に種山石工の歴史や資料を展示する資料館「石匠館」がある。

（編集部）



河口から上流まで、その駅を訪ねる

球磨川の駅・ものがたり

連載その⓫　那良口駅

熊本産業遺産研究会　松本晉一

一勝地駅の友尻から那良口駅までの2・6㎞間に球磨川は大きく北から東へと直角に曲がる。その右岸は馬場と呼ばれ春には綺麗な桜が満開となる。目前の八貫ノ瀬を含め、両駅間には大小5つの急瀬が連続、付近は過去25回続く日本一鮎釣り大会の太公望やラフティング客で賑わう。列車は八貫、舟木谷第一、同第二の3つのトンネルを抜けると、川音だけの静寂な風情を有する、流域の左岸駅の最後、那良口駅へと停まる。

那良口駅

球磨川と那良川の交点に位置する那良口駅は今は1面1線の単式ホーム駅（図①⇩）。中央にはモルタル造の簡易待合所、公衆電話はあるがトイレは付属しない。昭和48年9月、貨物列車の廃止に伴い無人化されて地元住民管理となった。名誉駅長は林えみ子氏。ホームには季節ごとの花が植えられ、駅ホームと周辺の手入れの良さは一時評判を呼んだほど。所在地は八代起点から42・4㎞、一勝地駅から2・6㎞、海抜94ｍの球

図① 那良口駅⇩ 周辺（平成6）

磨村大字三ケ浦那良口にある（図②、③）。昭和30年代までは貨物側線と貨物用ホームが設置された2線2ホームの駅で、三ケ浦からの林業軌道が構内の同ホーム際までつながる。荷積み用の3ｔクレーンがあり、木材、竹材、薪炭を貨車積みしたが、無蓋車なので薪炭にはシートを掛けた。

図② 那良口駅（右は旧貨物ホーム、一勝地方面）

図③ 簡易待合所

図④ 那良川橋梁（福井弘氏）

大正15年9月の「新鉄道旅行案内」の那良口駅勢には1日平均乗客97人、降客82人の記載がある。地元案内には「あんた人吉行きなるか。ハイ行きますで・何時ん汽車からもどいなるか。午後の四時ん汽車からもどりもんそ」など当時の方言の紹介。唄には〝球磨は好いとこ青々と、どこも人吉心地よし〟の記載がある。

図⑤ トロッコ軌道橋台跡（左右端）福井弘氏）

図⑥ 旧貨物ホームと炭小屋跡（右手）

昭和60年代までは平均60名前後が駅を利用したが、平成10年の利用客数は、定期通勤が2名、通学が36名、普通乗客が10名の48名とのこと（人吉新聞平成12年2月9日号）。駅前を県道15号（人吉水俣線）が走り、対岸の国道219

号線には朝夕通勤の喧騒が耳に残る。

当駅の渡駅寄り90mには那良川橋梁（12・7m、図④）があり、その橋台は芋川橋梁同様、化粧煉瓦と石積みのデザインを呈している。そこから100m上流に眼を凝らせば、後述する那良口駅発祥の由縁となる旧一勝地官営製材所へとつながるトロッコ軌道のセメント橋台跡（図⑤）が遠望出来る。60年前にはその軌道は駅構内へと延びていた（図⑥）。

旧官営一勝地（松谷）製材所

那良口駅の開設は鹿児島本線開通2年後の明治43年6月25日。その背景には駅開業の3年前、明治40年4月24日に駅傍を流れる那良川の上流、三ケ浦松谷に官営の一勝地製材所が完成、その奥の白浜官山からの製材の積出し駅（荷物取扱所、従業員7名）として開業した。製材所開業式典には地元有志、村会議員、熊本運輸事務所の中島技師、人吉小林区所長（営林署）らが招待されたという。

この官営製材所は明治38年の日露戦争戦費用として、熊本大林区署（熊本営林局）、人吉小林区署管内で白浜一帯1000ヘクタールの樹齢200年の樅、栂の国有林に着目。戦後の財政再建のためにこの地の国有林を直営化し、この地に経費4万3千円で官営の製材工場を建てたのである（図⑦）。さらに明治45年2月、木材伐採地の白浜には水車動力製板による白浜官行研材所が設置された。

図⑦ 旧官営一勝地製材所絵葉書

図⑧ 同100年後の現在

材木はトロッコ軌道までは木馬による人力で運ばれ（図⑨）、トロッコによる白浜林道（森林鉄道2級）は白浜から那良口駅まで11・58㎞、昭和28年前後まで利用されていた。手ブレーキをかけながら材木、木炭、竹を載せて夕方下って来た各トロッコは、翌朝には空トロッコを2台載せて馬で引いて白浜まで上げた。朝鮮戦争下、好景気時のトロッコ数は18台が稼働したと言う。次第に輸送方法は専用軌道からトラック輸送に移行、白浜林道の白浜橋の完成は昭和29年12月で、欄干にはトロッコ線路の一部が使用され、輸送路変遷の象徴的な橋でもある（図⑩）

図⑨ 木馬

図⑩ 白浜橋欄干（福井弘氏）

明治45年4月の那良口駅荷物取扱店名簿には岡回漕店、大正8年には鮎川回漕店、木村運搬店の名前が見られる。駅での旅客取扱はさらに3年後の大正2年3月より旅客及び小荷物取扱を開始。汽車賃は人吉まで通行税ともに11銭、熊本までは83銭であった。

一勝地官営製材所は大正13年に大倉組に貸下げられ、後に鹿児島の個人企業に移譲されるが、白浜地区の樅や栂の大きな自然林は昭和30年代前半まで伐採・搬出されたという。ここは青森、秋田、高知と共に九州一の官営製材工場の先駆けで、当時には珍しいイギリス製の77馬力蒸気汽罐（ドイツ製80馬力説あり）は鹿児島から船で佐敷へ運ばれ据えられたという。当時の三ケ浦地区の戸数には二千戸余の記録がある。

製材所開業当初、那良口にはまだ鉄道の駅はなく、製材所製品は一勝地駅の鮎川回漕店で取扱われ、それ

らは三角、佐世保、門司、大阪、名古屋、朝鮮方面へと輸送された。だが、この製材所も大正13年12月には廃止される。創業時からの18年間が、この駅が最も栄えた時期だとされる。

図⑪ 松谷棚田と旧一勝地第二小学校（旧製材所跡地⇩）

官営工場閉鎖後もさらに木炭、木材の搬出で賑わいを見せ、木材関連業者には岡商店、川上林業、熊本運送、木炭には西、川上、岡、板崎の各商店、竹材の取扱いには熊ノ御堂商店があったとのこと。当時、三ケ浦山林の一部は明治43年に細川侯爵家に移譲（30町歩）され、戦後は川上林業、

図⑫ 梨園と毎床溝（手前）

小吹林業、十条製紙に売却されている。駅周辺には30世帯が住み、魚屋、床屋、各商店で賑わいを見せた。一勝地製材所は昭和8年に一勝地第二小学校、現在は「体験交流館さんがうら」（図⑪）になっている。

また大正期の毎床地区では農家経営に梨の栽培を督励、「一勝地梨」を有名にした。さらに大久保には溜池を造成、専用水路（毎床溝）で水田を開墾。段差100～200mのこの松谷棚田は、一勝地の鬼ノ口棚田と共に農水省の「日本の棚田百選」（図⑫）に選ばれている。

この地は肥薩線と共に、日本の近代化推進の原点となる地区であり、経産省の近代化遺産の一つに加うるに相応しい、明治期産業遺産の存在した由緒ある所なのである。

〈当駅にまつわるエピソード〉

○昭和25年2月17日、三社詣り列車7両が、那良口駅から渡駅寄り1kmの地点で崖崩れに遭遇。機関車と炭水車は線路沿岸の旧国道に横転、客車3両が脱線する事故が起きた。団体客563名はかすり傷のみで1名の死傷者もなかったが、機関助手が火傷、機関手は大腿部打撲傷を負う大事故が発生している。

○元熊本運送運転手、岡本孝夫氏（81歳）の昭和28年前後の談話

「那良口の奥の俣口、白浜、遠原から木炭、竹、木材などをトラックで那良口駅へ駅出しした。川上林業からは木炭、木材（杉、檜）、竹材、白浜営林署から木材（主に檜）、西商店から木炭を出した。那良口駅には貨物ホームがあり、駅構内に炭小屋が2棟、木材の土場が手前にあった。詰所に仲士が数名居て、数台の貨車は彼らが肩押しで入替、木炭は有蓋車、木材や竹は無蓋車に積んだ。営林署の材木は檜4m材で木口が40～50cmあり、それらは田町の営林署貯木場へ直接運んだ。駅前には西商店が2軒あり、右側の西さんが木炭を扱っていた。また当時は午後にはトロッコが白浜から木炭や材木を積んで下って来ていた。」

「昭和30年頃と思うが、午後2時過ぎ、丁度木炭を下ろした時、那良口駅下の目前で川下り船の2艘が転覆。皆で直ぐに救助し、会社のトラックでガイドとお客を載せ、青井（出町）の川下り事務所まで運んだ。その日の川は赤濁りの大水で〝なんでこんな水の多い時に船ば出してどきゃすっか〟と文句を言った位、大水の時の川下りであった」

「収穫期の毎床の梨は、夕方から4tトラックに200～300箱積み、台風の最中、夜半に加久藤越えして、朝早く鹿児島の中央市場へ運び高値がついた。その一部は沖縄にも出荷されていた」

〈参考資料〉
・鉄路壱千哩　鉄道院　明治42年版
・取引店名簿　明治45年4月1日　内国通運株式会社
・全国運送取扱人名簿　大正8年3月　全国運輸連合会
・球磨村史中巻　球磨村編さん委員会　平成6年10月　ぎょうせい
・　同上下巻　球磨村編さん委員会　平11年3月　ぎょうせい
・日本鉄道請負業史　明治編　鉄道建設業協会　昭和42年12月　三秀舎
・里山資料「三ガ浦山林と官業一勝地製材所」大無田正明　平成14年
・「近代化遺産、国有林森林鉄道全データ九州・沖縄編」熊本日日新聞　2013年
・前掲「肥薩線の近代化遺産」一勝地駅
・前掲「興味を本位として新鉄道旅行案内」
・前掲「駅」那良口駅　平成12年2月9日人吉新聞
○聞書き：村口保彦氏、川口政喜氏、岡本孝夫氏

人吉観光案内人物語

住吉則昭

定吉が行く

— 11 —

© Keiichi Murakami

九州相良藩「吉組」大番頭　鳥飼 博

熊本地震と吉組

平成28年の運行を4月初めから開始した「SL人吉」の送迎は、多くの吉組メンバーと「SL人吉」の雄姿を見学に来た人々と一緒に行なった。土日には子供連れの人も多く、子供達も喜んで参加してくれた。昔を懐かしみ「私たちが若かった頃と同じ煤煙のにおい。懐かしいにおい。来てよかった。」という老夫婦も居た。

「SL人吉」の見送り

人吉駅の裏に在る大村横穴古墳群の前では、桜吹雪が舞い、名残を惜しむように花見をしていた人々も、「SL人吉」に笑顔で手を振っていた。

平成27年の夏前までは駅ホームで送迎をしていたのだが、ちょっとした出来事により吉組はホームでの送迎が出来なくなってしまった。それからも色んな事があり、回廊とMOZOCAステーションの間で送迎を行なう様になった。当時の人吉駅長は、その出来事を吉組の行為と勘違いしておられた様で、そこにつけ込む人々の話を信じてしまったらしい。人吉市の広報担当者から、吉組の写真を広報に載せるという申し出に、駅前広場で写真を撮ってもらっていた所、その写真を広報に載せるにはJR九州の許可が必要だと駅長は言った。この時には定吉以下、全員が切れた。しかし、

集合した「吉組」のメンバー

そこは大人の団体。日頃から同じく送迎をしている「くま川鉄道」に、ホームでの撮影許可をお願いすると、「どうぞ、どうぞ」と笑顔で返してくれた。

そんな苦い経験があったので、新駅長が赴任されると直ぐに定吉、吉名【中番頭の義吉】と私の3名で挨拶に行った。私と義吉の父親は、旧国鉄職員であった事も話した。新駅長は、当然ながら私たちよりも若いが、とても丁寧に穏やかに応対をしていただいた。それでも笑顔を見せない様子には、前駅長からの引継ぎ内容が垣間見えた。面会を終えてから定吉が、「新駅長にも、我々の活動についていつかはご理解いただけると信じ、今後も活動を継続して行く」と言った。新駅長の表情から、皆同じものを感じ取っていたのだ。義吉と私も定吉の顔を見ながら頷いた。

それから間もなく、4月14日と16日に震度7の大地震が発生した。

主宰定吉の指示により、15日早朝からFace book等のSNSを最大限に活用した情報収集と、物資の調達作業を開始した。この活動により、相良藩【吉組】という小さな任意団体が、こんなにも大きな組織に変貌するのかという体験をする事となった。

吉名【コンシェルジュの安吉】は、15日の正午には、自宅で炊いたおにぎりや飲料水を持って宇城市の避難所に居た。知り合いの女性市議に会い、必需品を聴き取りJスタに帰って来た。夕方には郡市内の吉組メンバーから、米、野菜、生理用品、ウエットティッシュ、飲料水、菓子等が届けられた。

【安吉】の報告から、生活必需品の配布と炊き出しが必要である事が分ったが、被災地域が広いため、地域を限定した支援活動とする事となった。物資と共に人員の確保も必要であったが、人員は直ぐに集まった。というより、何か手伝う事はないかと、自発的にメンバーが集まって来ていた。

16日の夕方には、支援物資を積んだ車3台がJスタを出発した。それまでの情報収集により、熊本市内3ヶ所で物資の配布を始めた民間団体が在り、そこに市民が押しかけているとの情報が在り、その団体に届ける事となった。時間が経つに連れ、熊本市内の状況や道路状況が明らかになってきた。本震も発生し、自治体の手もまわらない状態なので、2日間も何も食べておらず、飲み水も無いという地域の情報も入って来る。既に熊本県より北から県南への物資搬入は不可能で、鹿児島、宮崎県経由でないと流通が出来ない状態となっていた。

今、何が必要なのかもマスコミの報道より早く届く。地震被害が甚大である事を理解するに連れ、吉組のメンバー達はSNSで物資の提供を知人・友人にお願いしていた。そのお陰で、日々Jスタには様々な物資が大きなダンボールで届く様になり、倉庫状態となっていった。郡市民の皆様からも、「少しですが、役立ててください。」という心温まる品が届けられた。人の出入りが激しくなると駐車場にも困ったが、Jスタ隣の肥後銀行人吉駅前支店に定吉がお願いに行くと、「吉組さんの活動は、存じ上げております。どうぞお使い下さい。」と当時の支店長から嬉しい返答を頂いた。

人吉球磨地域では、吉組だけではなく、多くの人達が動き出していた。理容店の長男は毎夜、仕事が終わってから物資を買い熊本市内へ届けていた。湯前町のレストランも店休日には、炊き出しを行った。青井阿蘇神社、高野寺の和尚も毎日動いていた。私たちが知らない団体や個人も、被災者の事を思い動いていたのだ。吉組のメンバーも、一度でも被災地に行った者は、最後まで活動を止めようとしなかった。

21日になると、毛布やタオル等も大量に届いた。吉名【灼熱の秀吉】の大学時代の先輩で茨城県の小川様からは、2L×6本入りの飲料水1440ケースが送られて来た。この物資は、吉名【銀翔銀吉】の紹介

により、熊本市西区のアクアドームで活動をしている民間団体に届ける事となり、定吉が自衛隊員の方々の協力を得て荷卸作業を行なった。

また、同じ日に吉組女性部が中心となり、宇城市避難所での炊き出しも開始した。

熊本市のアクアドームへ飲料水を届ける（4月）

「吉組」による熊本市南区役所での炊き出し（(4月）

その様な被災地での吉組の活動をFace bookで見た方々からは、更なる物資提供の話が持ち込まれた。

山口県の【SLやまぐち地域振興会】【津和野町観光協会】からは、「三年前、津和野町で水害が起こり、沢山の方に支えていただきました。私たちに出来る事は、協力させていただきますので、頑張りましょう。」のメッセージと共に、物心両面の支援を頂戴した。

この山口県の2団体との関係を築いていたのは、やはり定吉であった。ひとりで案内活動をしていた頃に、JR西日本より依頼を受けて「SLやまぐち」の専属写真家の吉永さんとFace book友達となった事が始まりらしい。

定吉に尋ねると、「吉永さんとは、SL繋がりたい。津和野町観光協会には、吉永さんが協力依頼をしてやらしたとげな。嬉かなぁ～。」と教えてくれた。

5月になっても赤ちゃんの紙おむつや、お尻拭き、生理用品の要望が届いていた。Jスタに無い物資は、葉山葬儀社さんから頂戴して配った。

定吉は、高野寺の和尚と青森ライオンズクラブの方々と一緒に炊き出しに行き、女性部は別の避難所で炊き出しを続けていた。青森ライオンズの

方々は、一週間にわたり朝夕の炊き出しを提供されていた。

被災地の農家が育てた、販路に困っているというトウモロコシやブルーベリーは、Ｊスタで吉組メンバーに買ってもらった。

その様な状況でも、７月に開催する「よさこい祭り」の企画会議は続いていた。被災地支援を続けているメンバーにも疲労の色が見え始めていた。

そんな中、定吉に、熊本市出身で東京在住の芥川プロデューサーから、「人吉市で映画を撮影したいが、協力してくれないか?」との連絡が入った。

【とりかい・ひろし／人吉市】

くまがわ狂句

村上鬼拳

ばれちゃった　目ン玉が嘘言いきらん

ぼんやり　時の列車に乗り遅れ

右往左往　付箋かろうた陳情書

一服して　飛び出していく記者だまり

おっちょこちょい　内示の前に刷る名刺

土産話　地球儀までも持って来て

次の一手　名月に口説かせてみゅう

体重計　君も失恋するとええ

【むらかみ・きけん／人吉市】

昭和の写真館 8

撮影／東儀一郎

旧坂本村中心に昭和 20 年後半から 40 年後半までの出来事をカメラに収めていた故・東儀一郎さんが残した写真を紹介する。

荒瀬ダム湖で舟を漕ぐ儀八さん（昭和 30 年代）

親子

舟を漕いでいる男性を写した普通の写真にみえる。そのようにみてもいいだろうけど、息子が父を写した写真でもある。故・東義一郎さんは数多くの写真を撮った。そのなかには、儀一郎さんの家族を写したものもあるようだ。

この写真はそのひとつである。舟の漕ぎ手は儀八さん。儀一郎さんの父親である。儀八さんの目はどこか優しげにみえる。

今月の詩 ⑪

人吉球磨児童生徒文詩集「やまぎり」から

第 34 号（2006 年 3 月発行）　選・作文の会

感じること

球磨中一年　大坂間 志織

「さむー。」
朝　髪の毛を結びながら玄関を出る
今日も息が真っ白だ
髪を結んだあとはポケットに手をつっこむ
早（はや）歩きしながらバス停へ向かう
スクールバスが待ち遠しい

「あ　バス来た。」
急いでバスに乗る
バスの中はあったかい
ポケットから手を出す
赤くなっていた手が今は普通の色

学校に着く
また息が真っ白
バスから降りて昇降口へ歩いていく

また赤くなっている私の手
痛いからポケットに手を入れる

ポケットはいいな
あったかいし　寒くないし
なんでもはいるし…
でもなぜだろう
なぜポケットはあったかいのだろう
生きてるっていいな
冷たいとか　痛いとか…
感じることが生きている証拠
思わず私は笑顔になる

【評】冬の朝の何でもない光景を題材にしている。日常の気にもとめないことを感じることができる幸せをとらえた作品だ。

オールドローズの平原
オールドローズの宝庫

球磨川ツクシイバラの会 事務局長　遠山 令二

球磨郡の河川敷に咲くツクシイバラ

不思議なことに、人里近くの川のほとりにはトゲのある野ばらがよく見かけられます。神様が川の水難から子どもたちを守るため植えたからだと言う人もいます。

ツクシイバラはこの野ばらの変種とも言われ、北海道のハマナスとともに後世に残したいバラ『ヘリテージローズ』と認知されており、濃いピンク、淡いピンク、白の3色の花を咲かせるバラです。ここ球磨川には昔からツクシイバラが自生しており、球磨川の上流水上村から下流の球磨村まで、川の水面が、このツクシイバラの花でピンクに染まっていたとまで言われています。

現在、かろうじて残ったこの自生地には、ツクシイバラだけが生息しているわけではなく、真っ白な大きめの花を咲かせる、地面に這うように広がるテリハノイバラ、更に、ヨーロッパのバラ庭園に画期的な変革をもたらした、8種のバラの原種のうちの1つと言われている、白い小さな花を咲かせる普通の野ばらの3種類のオールドローズが自生しています。

まず4月に野ばらが咲き、その野ばらが咲き終わる5月になるとツクシイバラとテリハノイバラが、バトンタッチされたように一斉に咲き始めます。そして、ツクシイバラも1株のなかで、3色の花を次から次へと、まる

でウエーブでもするかのように、咲いては枯れ、枯れては咲いていきます。

こんな人里近くに

開花時に夕闇のツクシイバラを照らしているライトアップの電源を落とし、この自生地の真ん中で空を見上げると、３６０度満天の星空です。堤防に上がると、猫バスのような1両編成の車輌の灯りが遠く、西の方から現れ、しばらくして、くまがわ鉄道の木上駅にすべりこんでとまり、一人の乗り降りもなく、また東の方へ消えていく、幻想的な風景に出合うことがあります。

その無人の木上駅から、ほぼ真北に田園の小道を進むと球磨川の堤防に突き当たり、その小高い堤防をよじ登ると目の前に広大なツクシイバラ自生地が飛び込んできます。こんな人里近くに、ツクシイバラ自生地としては世界一広いとまで言われる場所があります。

1本でも植えたら自生地ではない

初めて見た人からは、こんなにたくさん誰が植えたんだろうと、よく質問されますが、ここの何万本というツクシイバラは全て自然に自生したものです。この自生地のなかを縫うように走るサイクリングロードの工事の際、自生地内の多少の移植があった以外は、人の手では1本も植えられていません。上流から1粒の種が流れてきたのかも知れないし、一羽の鳥が1粒の種を落としたのかも知れません。

「1本でも人が植えたら自生地じゃないから、ツクシイバラを保護するのも大切だが、この自生地そのものを保護していかなくてはならない」。私たちが保護運動を始めた頃、ある植物学者が言われたこの一言が、ツクシイバラの会の保護コンセプトになっています。自生地は、壮大な時間のなかの偶然と幸運のみでできるものなのでしょう。人間がどんなに頑張っても造れません。あのビル・ゲイツでさえ造れないほどの価値があるのではないかと思われます。

共生

ここの自生地には、アメリカでエイリアンプラントとまで言われたクズや、外来種のセイタカアワダチソウ、数種類の野草も自生しています。私たち球磨川ツクシイバラの会の主な活動である除草作業は、このクズのツル切り作業にそのほとんどを費やしています。

ボランティアによる除草作業

5月になれば天に向かって咲く

しかし、ツクシイバラに限って言えば、家庭の庭に植えてあるツクシイバラには、すぐ害虫が付いて葉を食い荒らされるのに、この自生地のツクシイバラには、ほとんど害虫がつきません。もしかしたら、私たちがあんなに嫌がっているクズも、この自生地では、なんらかの役割があり、共生しているのかもしれません。自然のバランスは人間の想像もつかないところで作用しており、もし、人の手で、このクズや他の植物を全滅させたら、このオールドローズたちにもなんらかの影響があるのかも知れません。

１００年前の発見

この自生地から上流へ約10㎞の免田川のほとりで、植物学者の前原勘次郎氏がこのツクシイバラを公式に発見されたのが、ちょうど１００年前のことでした。その後、植物学者や愛好家が大切に見守ってきていましたが、一般にはあまり知られていない存在でした。

そんな中、10年前、画家の流郷由紀子氏のツクシイバラの絵がツクシイバラの存在と価値を、私たち地域住民に

教えてくれることになり、小奇麗なバラ公園をつくるのではなく、荒野のツクシイバラ自生地の保護活動を目的とした球磨川ツクシイバラの会が発足しました。前原勘次郎氏が第一の発見者とするなら、流郷由紀子氏は第二の発見者と言っても過言ではありません。

球磨川とツクシイバラ（撮影／山口啓二）

人間の刃

現在、ここ球磨川の河川敷に何万本のツクシイバラが自生していますが、地球規模で考えると、針の1点でかろうじて自生している絶滅寸前の植物と言えます。昔、九州一帯でいっぱい咲いてたこの花が、なぜ絶滅危惧Ⅱ種に指定されるほど減少したのでしょう。このツクシイバラはその直根をコンクリートのような硬い川原に根着かせ増えていくほどの生命力があり、そう簡単に枯れる植物ではないのです。それにもかかわらず、ここまで減少した要因として、気候変動や河川工事の影響も考えられるでしょう、しかし、一番の要因は私たち人間の、トゲのある邪魔な植物だという意識の刃だったのではないでしょうか。私たちが100年後の人に、このオールドローズの自生地を引き継いでいくためにも、この自生地の価値を粘り強く啓発し続けていきたいと思っています。

【とおやま・れいじ／球磨郡錦町】

記憶の落ち穂

その ⑪

絵と文／坂本福治

諸橋轍次のこと

本誌一月号に、平岡優平さんが書かれた文中、諸橋轍次の名があった。

私が勤めた湯島聖堂には孔子が祀られており、年一回、四月の最終日曜日に「孔子祭」が開かれる。その終わりに尚師会という交流会があった。「尚師」とはお年寄りを敬うという意味。この会では熊本出身の宇野哲人氏が八十二歳で、天皇的存在だった。その次が「大漢和辞典」を編纂した諸橋轍次氏で、いつもとなりの席だった。私はマイク係で、宇野氏の次に諸橋氏に手渡した。中国の高名な人物三人の名をあげ、「この三人の年を足しても、宇野先生と私の年の合計のほうが多いのです」と、自慢気に話された。

平岡さんが「高額すぎて手元に置けない」と書かれた辞典は、厚さ五センチ位のが十三巻もある。実は、ほぼ完成していた原稿が空襲で灰になった。それにもめげず、再び挑戦されたものと聞いた。巻末には、編纂に協力した人の名前がびっしりと印刷されている。諸橋氏は一見、学者には見えない風貌の人だった（文化勲章受章）。

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】

くまがわすじの考古地誌

（6）

球磨川筋の弥生時代⑥

熊本県立装飾古墳館長　木﨑康弘

（NO.167）

中通弥生中期ムラ、その姿と生業

本連載一六六では、人吉市中通遺跡で、弥生時代中期後半の黒髪式土器の頃の竪穴式住居跡六基が見つかったことを紹介した。当時の様子を明らかにする上でも、その成果は、重要な情報源となるはずだ。では、具体的にどのような成果だったのだろうか。

遺跡は、球磨川の南岸、その支流、鳩胸川と胸川に挟まれた台地上にある（写真）。そこは、一段高くなった丘陵状の地形が凸凹と両河川沿いに延び、それらの間に凹地が広がるという複雑な地形である。凹地の地形もまた複雑で、人我胸川という小川が流れる狭い谷には、谷戸田が広がり、そこより一段高い部分は平坦地で、宅地と畑地に利用されている。

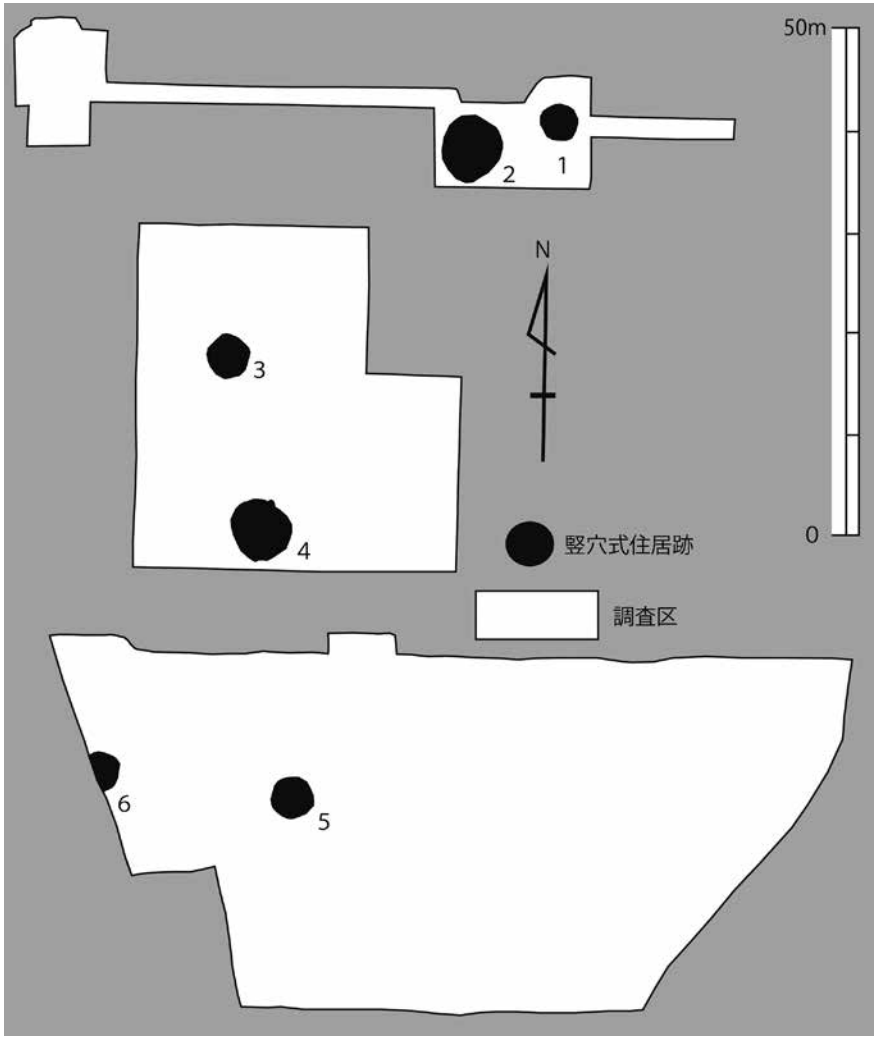
発掘は、人吉市社会福祉協議会の施設新築工事に伴い、人吉市教育委員会が行った。一次は、一九九一（平成三）年七月二二日から八月三〇日までで、二次は、一九九六年六月四日から一九九七年三月三一日まで。担当は、社会教育課の学芸員（後に歴史遺産課長、現熊本市熊本城調査研究センター主幹）の鶴嶋俊彦と、同嘱託（現歴史遺産課文化財専門員）の和田好史だった。

発掘では、六基の竪穴式住居跡が

写真　中通遺跡の位置とその周辺

見つかった（図①）。一は、直径三・五メートルの円形（図②）。直径〇・八メートルの地床炉があり、それを挟んで両側に柱穴があった。二は、直径六・四メートルの円形（図②）。一・二×〇・八メートルの楕円形の地床炉があった。三は、直径二メートルの円形（図②）。炉は無かった。四は、直径五・七メートルの円形（図②）。〇・九メートルの地床炉があった。五は、直径二メートルの円形（図②）。一・三×〇・七メートルの楕円形の地床炉があり、それを挟んで両側に柱穴があった。六は、調査区外に半分が隠れていたため、全容は不明だが、現状で直径三・七メートルの円形のようだ（図②）。炉は無かった。ここから、黒髪式土器の大形の破片（図②）が出土し、住居跡の時代特定につながった。

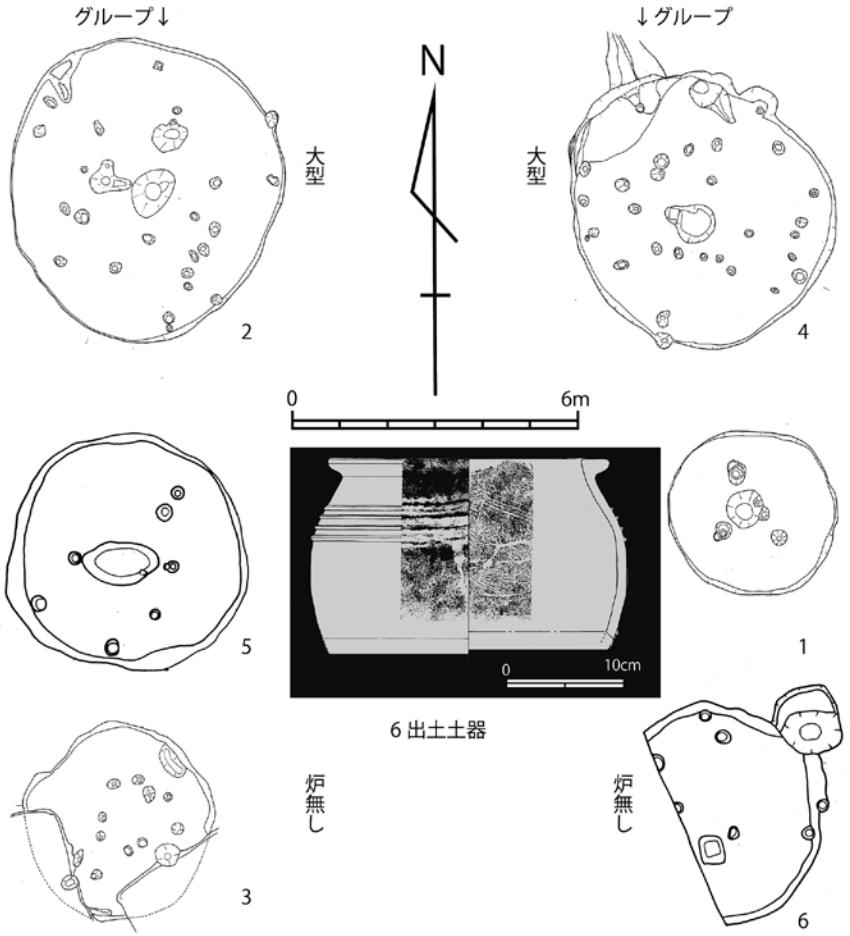
六基の住居跡には、大型（二・四）と小型（残り四基）があった（図②）。地床炉の有無では、持つもの（一・二・四・五）と持たないもの（三・六）があった（図②）。さらに、一と二の近接しすぎた位置関係（図①）からは、六基がどうも新旧二つの時期に振り分けられそうだった。そうなると、「二（大型）・五（炉無）・三（炉無）」と「四（大型）・一（炉有）・六（炉無）」とのグループ分け（図①）もできそうだ。



図① 中通弥生中期ムラの住居配置

ムラ全体を発掘していないとはいえ、中通弥生中期ムラの姿がおぼろげながら見えてきそうなのが、今回の発掘だった。

住居は、狭い台地を有効利用するためだろうか、直線的に配置されていた（図②）。大型一基と小型二基の三基以上が一つの単位で、少なくとも二時期維持されていた。ムラの広がりは、それがどれほどだったのかは分からないが、住居跡が切り合わず、直線的に配置されていたことからしても、それほど広がるものではなかっただろう。



図② 中通遺跡の竪穴式住居跡

また、周辺地形の様子からは、水稲栽培の場所が絞り込めそうな感じである。無理なく行ける、直近の場所で、南に四〇〇メートル程行ったところにある鳩胸川沿いの氾濫原はどうだろうか。台地上から氾濫原までの比高差、三〇メートルを下るだけで、そこだったら、仕事に行くのにも何の障害もない。おそらく、そこを生業場として、しばらくの間、人々は、ムラを営んでいたのだろう。そんなことが想像されてならないのだ。

（つづく）

文献①『中通遺跡』（人吉市教育委員会、一九九八年）

上杉芳野の「あがっ段」⑨

届け、園児の願い

あさぎり町の保育所4ヶ所は昨年の4月から民営化され、須恵保育園は相良村の緒方裕之園長先生が運営されることになった。

緒方先生は地域の宝である遠山桜をお芝居にして、いろんな人達に須恵の良さを知ってもらいたいと脚本を書かれ、12月に第1回目の発表会を開いた。「がんばれ遠山桜」と題した劇を上演し、園児たちが元気に演技を披露した。

その劇に私にも声がかかり、バスガイド役で出演する事となった。その劇は、園児たちがバスに乗って遠足で見に行った美しい「遠山桜」の枝がその後、台風の影響で折れてしまうというストーリー。

私がまず脚本を見て笑ったのは、「ガイド（下腹出る子）」と芸名で書いてある事だった。それを保育園の子供達にも言ってあったらしく、私が保育園に行くと園児たちが「あっ、下腹出る子さんだ」と言いながら寄って来るのだった。みんなが「出る子さんじゃもんねェ」と言っていると、一人だけ私に抱きつき顔を見上げ、「お母さんと一緒にお仕事しとったもんねェ～」と言う子がいた。

平田みのんちゃんである。

須恵保育園児たちによる発表会

以前私が勤めていたあさぎり町社協で、お母さんに付いて来たとき受付の前で遊んであげた事があり、それで覚えてくれていたんだろう。この劇に出る事が決まり、母親の富士香さんに話したら、「みのん、芳野ちゃんがバスガイドで劇に出るげなばい」とみのんちゃんに教えたところ、「違うばい、ガイドさんは下腹出る子さんばい」と答えたらしい。

だから私の事を芳野ちゃんと呼びながら甘えてくれた。みのんちゃんにすれば、下腹出る子さんが芳野ちゃんとはびっくりした事だろう。

熱演する園児たちと私（右）

私が2～3回練習に行った時「みのんちゃん」と名前を呼ぶと、他の園児が、「私は○○と言います。私の名前も覚えてね」と言われてびっくりした。劇の練習に入って自分のセリフの出だしがわからず困っていると、子供達が「ガイドさんの番だよ」と教えてくれた。

子供って本当に素直でいいなァーと思った。

このお芝居の舞台となった「遠山桜」は「天空に咲く桜」として県内外から来られた多くの花見客を楽しませたが、10年ほど前の台風で樹幹が折れ、腐敗と病気が進行した。遠山桜のある松尾集落の人達は樹木医の指導の下、懸命に回復に向けていろんな対策をされて今日まで来た。

この桜が今から10年、20年の後に、今以上の高さで、もっと大きな樹になり、見事な桜の花を咲かせる時、あの園児たちは自分たちが演じた劇を思い出すことだろう。

あさぎり町須恵にある「遠山桜」（撮影／遠山幸穂）

可愛い園児の思いが届く日を夢見て。

【うえすぎ・よしの／球磨郡の元気応援団長。あさぎり町上】

医食同源 ⑦

食と情緒

食育を始めて 10 年
浦川春加

二月四日の節分（立春）を過ぎ、極陰の冬が終わり、陽の力が増えていく春が始まりました。

梅が咲いていたり、風が暖かくなっていくのを感じたり。日の長さが少しずつ長くなっていくのを感じたりしますね。

通勤中の道すがら、お散歩の途中。みなさんは、どんな春を感じていますか？

今回は、食と情緒についてお話しようと思います。

「身心一如（しんじんいちにょ）」という言葉を知っていますか？

禅宗の文献にでてくる言葉で心と身体はつながっている、という意味です。

禅宗では厳しい修行を行うことで、体で覚え込ませ、心に働きかけていきます。身体を鍛えるという事は、自ずと精神も鍛えられます。

この身心一如を重視しているのが東洋医学です。一方、西洋医学では、心と身体は別物ととらえますので、病気の体を治す。という事に特化しています。

東洋医学の観点で体の調子を見ていくと、氣の巡りや氣の乱れが大きく関係していきます。

例えば、常にイライラして他人のせいにしていると、肝臓を壊すと言われています。更に、恐れが腎を傷つける、とも言われます。ネガティブに陥り、猫背の状態が続くと、胃を圧迫して食欲不振、消化不良を引き起こします。胃腸が弱ると体力を消耗します。

こうやって見ていくと、健康で生きていくために、いかに心の状態の大事さが、わかってきます。

では、どうやって氣の乱れ、心の不調を防ぐか。

まずは、イライラしている自分に気が付くことです。

私ももっぱらの仕事人間なので、うまくいかない時はイライラしてしまいます。イライラしてもっとうまくいかなくなって、不調のスパイラルに陥ります。人間ですもの、不調が悪いことだとは思いません。一生懸命やっているだけです。

でも、不調はできるだけ早めに改善したいですね。

そんなときにお勧めなのは、「鼻呼吸」です。

居ずまいを正し、頭のつむじと丹田（たんでん）（おへそから指3本ほど下のところにあります）に力を入れて、体をまっすぐにします。それからしっかり前に出す感じで胸を張り、鼻から息を大きく吸い込みます。それから心と体の中の悪い物を吐き出す感じでゆっくり吐き出します。吐き出すのは、鼻からでも口からでも構いません。

これをするとだいぶスッキリします。ポイントは自分の事だけイメージして集中することです。

あとは、好きな時に、好きな人と、好きな物を少しだけ食べる。

これにつきます。そのときは、できるだけ、体にいいものをチョイスしてみてくださいね。

【うらかわ・はるか／人吉市「さんぽカフェオーナー」】

柳人があじわう漱石俳句

―⑪―

いわさき楊子

蒲団薄く無に若かざる酔心地

（漱石30歳）

昼の中は飯櫃包む蒲団哉

（漱石30歳）

この2句は一昨年発見された。松山の俳句仲間にあてた手紙にあったもの。「俳友も殆ど皆無の有様悲しく落寞を嘆じ居候」と書いている。

1句目は愛媛松山の中学校から熊本の五高に赴任した後の寂しさを、蒲団という冬の季語をつかってストレートに詠んでいる。見知らぬ地への不安がうかがえる。

2句目は漱石らしい生活感のあふれた句である。夜は飯櫃のぬくもりの移った蒲団で寝たのだろうか。

俳句雑誌「ほとゝぎす」がこの手紙の前月に松山で創刊されている。勢いのある俳句の地、松山から熊本へ来て、俳人仲間と別れた寂しさをつのらせたことだろう。

しかし、この翌年には熊本でも寺田寅彦らにより俳句結社「紫溟吟社」が作られ、漱石は指導的役割を果たすようになる。熊本時代の漱石は、五高教師であるとともに新興俳句創成期のさなかにいた俳人漱石でもあった。そして熊本在住4年3カ月の間に生涯で最も数多く、約1000句を詠んだ。

くやしい日かなしい日だけ書く日記　楊子

炊飯器のタイマー押してから家出　楊子

【いわさき楊子／川柳誌「裸木」編集人、熊本市】

人吉高校五回生同期会の歴史

瀬戸致行

私たち人吉高等学校第五回生は昭和九年、十年生まれで、国民学校一年生の時にあの無謀な大東亜戦争が始まり、五年生で敗戦となった。

戦後の学制改革で中学は新制中学となり三年後、人吉高校に無試験で入学した。昭和二十八年三月に男子二五八人、女子一六六人、計四二四人の同期生が人高の校門を後にした。未だ食料不足・衣料不足が続いていて、大学受験の時は新しい白い運動靴を買って貰い、米と毛布を持参して知人の下宿に三泊したが、寒さと興奮で眠れず、「羊が一匹、羊が二匹……」と数えたのを憶えている。

昭和四十三年に人吉に帰り、人吉総合病院に産婦人科医として勤務することとなった。その頃、人吉に高校の同期生たちが帰郷していて「瀬戸が産婆さんになったげな」と言って人高同期生の集まりを九日町一富士旅館でして貰った。

爾来、私たち人高五回生はまとまり良く、同期会を重ねて来ている。

昭和五十八年十一月五日、鍋屋本館のホールで人高五回生卒業三十周年記念大同窓会を開き、関東、関西、九州各地から百数十人が参加し、三十周年記念文集「おしょもんとてぇらんぼ」を発刊した。

昭和六十三年十一月五日、人高五回生卒業三十五周年記念同窓会を鍋屋本館で行い、百二十人が集まった。

更に、平成六年十一月五日、人高五回生卒業四十周年記念、還暦記念同窓会を鍋屋本館ホールで開催し、「仰げば尊し…四十年の時空を超えて……恩師よりの便り」を始め、満足のいく「おしょもんとてぇらん坊Ⅱ」を発刊した。

次いで、平成十五年十一月三日、人高五回生卒業五十周年記念同窓会を鍋屋本館で開き、百五十人が集まったが、五十年の歳月が流れ、五十人余の友を失い、四十人余の友と連絡が取れなかった。また、記念事業として、馴田章君のお陰で「第五回生

同期生名簿」が出来あがり配布された。

平成二十二年十月二十二日、人高五回生喜寿祝賀同窓会を清流山水花あゆの里で開き、九十四名が出席した。また、物故同期生は九十三名（男六九、女二四）で、住所不明が五十七名（男三七、女二〇）だった。

平成二十五年十一月四日、人高五回生傘寿祝賀同窓会を清流山水花あゆの里で行い、七十八名が出席し、更に、高校時に修学旅行をしていない男子諸君の希望で、近場ではあるが天草方面に、男女二十九名が賑やかに参加した。私たちは昭和二十八年に四二四名（男二五八名、女一六六名）が人吉高校を卒業し、連絡が取れて生ある者が二九五名（男一六八、女一二八）、物故者一〇〇名（男七一、女二九）残りは住所未確認の不明者である。

私たち人高五回生達は、その他、関東地区・福岡地区でも集まり、友情を深め確かめあっているが、熊本市内は「ニッパチ会」と称して、二月と八月に近隣の者が同期会をしている。喜寿と傘寿の開催には伊久美寛志君に大変お世話になった。

去年の十一月七、八日には山口市湯田温泉で人高五回生同期会〝山口に集う会〟が開かれて、萩市内観光も計画され松下村塾を始め、吉田松陰の歴史などを観光した。懇親会では当時の恩師の先生方の渾名が披露された。その一部をあげると、**海老原亮吉（えびしゃん）、奥田三来（かみなり）、種元勝弘（たねちゃん）、末次幸一（消防自動車）、中島鋼一（ノビシャン）、春木博（ゴンチャン）、平田廣美（下駄シャン）、山下邦光（鬼んこ）、牛島盛光（ベロしゃん）、佃為義（カメレオン）、渋谷敦（ぼっちゃん）、岩下新吉（しんきっちゃん）、根本政一（ネモチン）、山下登（ノボッシャン）、永野伝蔵（でんちゃん）、竹内十郎（漢文爺）、岩本定典（ガマサン）、米津ナル（よねつバー）、西倉基（ウス）**などで、殆んどの先生が彼岸に逝かれている。教え子である私たちが今や八十二歳の後期高齢者であるから。

この山口での同期会を主宰した一人の冨永和信君が「齢（よわい）八十二年生の雑言」というエッセイを配ったので、次号に掲載の予定です。

【せと・ちこう／人吉高校五回生】

妹の死

―戦後の球磨郡で②

片岡 和紘

二、田植え㊦

清水の人たちのために作った芋団子だったが、喜んだのは妹だった。母が唐芋の皮を剥きふかしているのを見た妹は「ワーイ、団子団子（あごあご）」と言って大はしゃぎした。

三時ごろ清水の人たちが田植えを終えて帰ってくると父は、風呂をすすめた。町から買ってきた手拭いを一人一人に配って風呂を使わせた。それから遅い昼食と団子が振る舞われた。食事は麦飯に味噌汁とナスの漬け物だったが、みんなは「おいしい、おいしい」を連発していた。

芋団子には手をつけず持って帰りたいというので、母は竹の皮を配った。みやげの分も用意してあったので、その喜びは一入（ひとしお）だった。喜びのあまり泣く人もあった。

「こんなに親切にしてもらったのは引き揚げてから初めてです」と何度も頭を下げて帰っていった。大したご馳走ではなかったが清水の人たちにとっては帰国以来のご馳走だったに違いない。風呂というもてなしも予想してはいなかったであろう。

当時の我が家は人を助ける余裕などなかったが、父母は出来る限りのことをした。それから一月半後、娘が肺炎を患いこの世を去ることなど思いもせずに…。

三、小学校入学

終戦から四年目の春、上村小学校から入学前の身体検査の通知があった。三月下旬のことだった。

妹は、五月（さつき）姉さんが一緒に遊ぼうと誘ったが、母と一緒に学校に行くと言って、身体検査と入学式にもついて来た。

学校まで二キロほどあるが妹は、姉のお下がりの着物にチビた下駄履きで歩いた。道はほとんど上り坂で、未

舗装の凸凹道だ。道の中央にはずっと草が生え、道端には山桜が咲いていた。白髪岳の麓にはたくさんの桜が咲いて、霞がかっていた。

妹は五月姉さんに習ったのか、「お手手つないで」と「赤い帽子白い帽子」を交互に歌いながら歩いた。五月姉さんが「典子ちゃんは上手じゃろ」と母に言った。

小学校の西門をくぐると大きな木造の講堂が、そびえるように建っていた。講堂の西側と東側の運動場にはずっと桜の大木が続いており、いずれも万朶の下に絢爛たる花を咲かせていた。講堂の裏側にも桜の老木があり花を咲かせていた。

身体検査は不合格だと思っていたのに、ただ「痩せてこまんかな」と医師は言っただけだった。それから学校の前にある中村商店に行き、金属製の筆入れ、鉛筆、消しゴム、ノートを母に買ってもらった。鞄だけは入学式の直前、人吉に出かけ九日町の鞄屋で買ってくれた。段ボール製のランドセルで、雨と汗でボロボロになり、一年もたなかった。学生服は父が朝鮮の航空隊から持ち帰った濃紺の軍服から作ってくれたが、セーラー服だったので同級生から「女子の服ば着とる」と笑われたので着るのをやめてしまった。中村商店で買ってもらったノートは粗悪品で、チリ紙ようにすぐ破れ、鉛筆は石のようなものが含まれていてスムーズに書けず、消しゴムはうまく消せなかった。中村商店が悪いのではなく、当時はそのような粗悪なものが多かったのだ。

買い物を終えると麓部落にある薬師観音にお参りしたいと母が言うので歩いて行ったが、私はとても疲れていた。妹も我慢して歩き、「おんぶ」とは言わなかった。

今でも帰省した折、薬師観音にお参りに行くようにしているが、それは小学校入学時にお参りしたことを家族の思い出として懐かしく思い出すからである。

四、妹の死

妹は亡くなる十日ほど前に夏風邪をひき、上村堀ノ角にあったT医院にかかった。

妹の風邪の原因は、口卑しい私に付き合って、スイカを求めて灼熱の太陽の下を歩き、じっと待ち続けたからかも知れない。それとも、たまに農業の手伝いをしなくていい日に兄が免田川に魚を獲りに行き、川原のたぎった石の上で妹に暑い思いをさせたからかもしれない。

妹は亡くなる前の日、少し気分が良くなったのか、ふとんから出て三毛猫と遊んでいた。父母も少しホッとしたようだった。それで二人とも田んぼに出たまま、夕方まで帰って来なかった。それが大きな油断だったのだ。

その日の深夜、「しもた油断した。早よ早よ」と父の怒鳴る声で私は目が覚めた。妹は激しく手足を痙攣させ、歯ぎしりをしていた。眼は白目をむき出し、両手は母の後ろ髪を引っぱっていた。妹をおんぶした母は、父とともに家を飛び出していった。闇の中でカッカッカッという下駄の音が聞こえた。やがてその音が消えると私は再び寝入ってしまった。

朝六時ころ、「和紘起きない、典子がうっ死んだぞ」と山本美登叔母が駆け込んで来た。私は「嘘だ、典子は死んどらん」と叫んだ。叔母は「嘘じゃなか、起きてマンマイさんのところに行たてみない。典子が寝とっで」というので恐る恐る仏間を覗いた。すると仏壇の前で頭を北向きにして寝ている妹の姿があった。母と五月姉さんが声を上げて泣いていた。妹の顔を覗くと、眼を開いていたままのいつもの黒い瞳が見えていて、死んでいるようには見えなかった。身体もまだ温かかった。私は妹の身体をゆすって「典子、典子」と何度も呼んだが、妹は眼を開けているのに返事をしなかった。

「典子はうっ死んだんだ」と母が言った。

妹の葬式が終わってから、母は妹の死について語ってくれた。死因は肺炎だったという。T医院に駆け込んだ時、医師は「今ならペニシリンという注射を打てば治る。一万円持って来い」と言ったという。家と田んぼを売れば一万円は出来る。だが家族が餓える。母の実家の叔父は一万円ぐらい簡単だ。ただ絶対に貸してくれることはない。結論は、典子の命を諦めることだったという。苦渋の決断だった。哀れな妹は貧困のために命を落としたのだった。この時代はまだ、このような経済的困窮による病死は少なくなかったのである。

（つづく）

【かたおか・かずひろ。旧上村出身、愛知県知多郡】

建築みてある記

島阿弥陀堂、島観音堂、新牟田加藤神社をあるく

森山　学

写真① 新牟田加藤神社拝殿（左）、島阿弥陀堂（中）、島観音堂（右）

ＪＲ千丁駅から徒歩十分。八代市千丁町の「島」とよばれる地に、三つの堂と社殿が建つ境内がある。島阿弥陀堂、島観音堂、新牟田加藤神社である（写真①）。さらに「万願さん」とよばれる石廟（写真②）もあり、神仏が集う美しい境内風景を作り出している。

この地域は、八代平野初の干拓によって陸地化された新牟田新地である。慶長二三年（一六〇八）、加藤清正代に造成されたと言われる。清正は新地の灌漑のため、球磨川の遥拝に八の字堰を築き、さらに通水能力を高めるべく太田井手を改修した。新牟田加藤神社はその清正公を祀るべく創建された。「万願さん」は、加藤清正のもと新地干拓に携わった東万願之助の廟である。

写真②「万願さん」

干拓よりも以前、「島」は沖に浮かんでいた。七九九年に創建された釈迦院の開祖、牲善大師は島の地蔵尊へ参拝を重ねたという。波荒い日には、岸に花を立てて拝跪（はいき）したという。千丁駅付近の花立て地蔵はこの古い伝承にまつわる。

のちに島は釈迦院領となり、島阿弥陀堂の前身、三角寺が釈迦院末寺として創建される。そのため島阿弥陀堂は「シャカイン」「シャインさん」とも通称されてきた。堂内の奉名札の一つ、昭和二二年（一九四七）のものに、「三角寺修繕費奉納金名簿」と書かれてあり、「三角寺」という名称も近年まで継承されてきたようだ。伝承の地蔵尊がその際どうなったのかは分からないものの、花立て地蔵からちょうど西にある三角寺を望めば、まさに西方浄土から射す夕陽のなかに阿弥陀如来が現出する様を拝むことができたであろう。

さてこの由緒に満ちた社堂群を見てみよう。のみ切り仕上げの石造門柱から境内に入ると、参道左右に加藤神社拝殿と阿弥陀堂が双子のように並び建つ（写真③）。拝殿の左前に「万願さん」、阿弥陀堂の右前には観音堂が向かい合って建つ。

写真③ 門柱から見た新牟田加藤神社拝殿（左）、島阿弥陀堂（右）

阿弥陀堂は切妻屋根の妻を正面とし、長さにして幅が約二間（柱間数では三間）、奥行きが約四間である。妻には彩色された九弁の菊の鏝絵がある（写真④）。弁数が九というのは不自然だが、阿弥陀如来の九品に通じるかと考えてみる。

その上の鬼瓦は大変素朴でユニークである（写真⑤）。夢中になって写

写真④ 島阿弥陀堂の正面の菊の鏝絵

真を撮ってみると、顔の横に年号の刻印があるのを発見した。「天保十三年」（一八四二年にあたる）とある。

外陣は八畳。正面の内陣との境（写真⑥）には漆の虹梁がかかり、その上に出組が乗り格天井を持ち上げる。持ち上げられた天井との間を蛇腹支輪がふさぐ。虹梁には七宝つなぎ文様の錫杖彫と、大きな渦に大きな菊が浮かぶ大胆な菊水の彫刻が彩色されてある。幕末以降の意匠である。このことから、鬼瓦の年号は建設年とみていいかもしれない。

内陣の仏壇前柱は漆塗りで菊が彩色されており（写真⑦）、柱頂部の出三斗が受ける天井の棹自体も彫刻されている。脇仏壇の虹梁には花頭曲線がみられる。思いもよらず立派な荘厳に出合うことができた。

加藤神社へ進もう。拝殿は長さにして二間四方で、阿弥陀堂の外陣とほぼ同じ大きさである。屋根も切妻造で妻を正面としていることから、阿弥陀堂と双子のようである。妻には鰭絵ではなく、加藤家の蛇の目紋と桔梗紋を墨書する（写真⑧）。二つの紋は本殿（写真⑨）においても、棟瓦、正面の蟇股（写真⑩）、内陣の観音扉と繰り返される。

「角川日本地名大辞典」では神社の創建を慶応二年（一八六六）と明記している。干拓から随分と間が空き、神仏分離の直前である。存置を許可されるのは「八代郡誌」によれば明治十一年（一八七八）。また加藤家が信仰した日蓮宗による法華曼陀羅の棟札が残されていて、これには明治十九年（一八八六）とあり、創建からわずか二十年後の改築と分かる。

おそらく清正公の分霊を長らく堂内に合祀してきたのであろう。神仏分離の際、神社と称し創建年を前倒ししたのでは？と勘繰ってみる。少な

写真⑤ 島阿弥陀堂の正面の鬼瓦

写真⑥ 島阿弥陀堂の内陣境

写真⑦ 島阿弥陀堂の内陣内部

写真⑧ 新牟田加藤神社拝殿の正面の蛇の目紋と桔梗紋

写真⑨ 新牟田加藤神社本殿

写真⑩ 新牟田加藤神社本殿の蟇股の桔梗紋（裏は蛇の目紋）

写真⑪ 島観音堂

くとも創建当時は本格的な社殿もなく、明治十九年は改築ではなく新築だったと考えられる。今の並び建つ風景は、この時に意図的に生み出されたのであろう。神仏分離の嵐を経て、両者を同等に扱うように。確かに棟札の法華曼陀羅からは、明治半ばにおいても、意識上では神仏が習合していた様子が窺える。

そうすると参道と門柱も、社殿建設時に社堂の間を進むように配置されたと推察できる。門柱は、鉄製門扉の跡も残っていることから明治以降の建設である。

最後に観音堂（写真⑪）へ。長さにして一間四方の小堂で、石積みの基壇の上に乗る。屋根は宝形造で、頂部には玉ねぎ型の宝珠を頂く。宝形造はピラミッド状の屋根のことである。本尊は正徳四年（一七一四）の作であり、創建年もこのあたりであろうか。詳細は分からないものの、小ぶりでスマート、美しいプロポーションのこの堂が、境内にもう一つの見せ場を作り出している。

これら社堂群は熊本地震で大きな被害を受けたが、ぜひ一度この境内風景をご覧いただき応援ください。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】

小山勝清 生誕一二〇年特集⑨

「女乞食」と共同体①

（編集部）

1、はじめに

『或る村の近世史』で小山勝清は次の例を紹介している。

「祭りの日に身体の不自由な女乞食が村人に取り囲まれ棒を投げられたり唾を吐きかけられたりしている。そこに通りかかった「私」は正義感を発揮して乞食を助けた。

だが、幾日か経たある日、彼女に出会うと「旦那さん、私はあの日以来ご飯を食べていません」と言うのである。

私は「義憤」を感じて「そりゃ、あんまりだ！」と声を荒げるが、女乞食は逆に「私」をたしなめて「村の人たちは今まで長い間、私を養ってきてくれたのです。私に悪戯をするのは私を憎んでいるからではありません。私が泣いたり喚いたりするのが面白いからです。私に芸をさせるのです。私はそれ以外に何も出来ないのです。皆で私を可愛がっているのです。その証拠に、みんな私に物をくれます。ですから、私は今まで村の人たちを恨んだことはありません。しかし、今は誰も悪戯をしません。その代わり、誰も物をくれません」と言う。

つまり、「私」が安物の正義感を振りかざして、女乞食の村での役割を奪ってしまったのである。村には、女乞食にも社会的役割があったのである。」

前山光則『球磨川物語』（１９９７年　葦書房）１８３頁は、この女乞食の話にもっとも惹かれるとし、概略、次のように説明する。

入会地を利用して生活する状況（生活様式）が村の「表の共同性」なら、「裏向きの共同性」として女乞食の「生かされ方」が存在したことになる。これを善悪のレベルで受け止めたって当時の女乞食の「役割」はみえてこないだろう。小山勝清は、２０代後半の若い時期に村の「深部」をちゃんと「正視」したのである。

と。

このようにいうとき前山は二つの評価をしている。第一に小山勝清は村の「深部」を「正視」しているとする小山勝清の

視座に対する評価と、第二に小山が触れた女乞食の存在を事実として受け入れたうえでの前山自身の女乞食についての評価である。この評価を検討する前に、女は、なぜ、「女乞食」になったのか、女乞食は、その後、どうなったのかを簡単にみてみよう。

2、女乞食の一生

女乞食は隣村の百姓・貞蔵の娘だった。貞蔵は相当の暮らしを立てていたが、日露戦争前に病死した。貞蔵には二人の息子がいた。長男は父親が亡くなった頃に、入営し、酒と女の味を覚え、少しずつ実家から金をとりよせていた。帰休したときには財産は人手に渡さなければならなくなっていた。そのうえ事の行き違いのため罪を受け投獄された。そのとき日露戦争が始まり、弟は入営し、満州に出征し、奉天の会戦で戦死した。その結果、老母と娘だけの生活になった。下賜された一時金でしばらくは暮らしていたが、それが長くつづくわけでなく、年金の証書も人手に渡し、しまいには、その日の食にも困るようになった。そして監獄の長男が獄死したとの報せが届き、母は発狂した。娘は女乞食として生きていかざるをえなくなった。

女乞食を「私」は助けた。その結果、彼女は生活の糧を失った。そのうえで女乞食は「旦那さまを神様のように考えています。旦那さまほど親切な人はいません」といい、ムラを出ていくと「私」に告げ、

「母は死ぬ前には、すっかり正気になっていました。自分が生きていたら、お前が苦労するばかりだ。自分も取る年だから、そう長くはあるまい。若し自分が死んだら四国へ巡礼に行け。四国はみんな親切にしてくれるそうだからと言いました。今朝、母は塀の外で首をくくって冷たくなっていました。」

女乞食がじっさいに四国巡礼の旅に出たかは不明である。しかし彼女が女乞食を積極的に受け入れていたわけでなく、「私」の介入によって、女乞食からの脱却を決意したのは確かであろう。意識していたか否かはわからないけれども、彼女には女乞食の「商売」は苦痛であったろう。四国巡礼による自己救済は相良における巡礼の意味を考えるうえで示唆的であるけれども、ここでは触れない。彼女が隣村の出身であること、そのことも関係してか親戚などの地縁者が勝清の女乞食には登場しないことをここでは確認すれば足りる。

くまがわの神さん仏さん ⑨

大人の修学旅行をいたしましょう

宮原信晃

梅の開花、おひな祭りとくれば、人吉球磨は相良三十三観音巡り。お彼岸の中日にさあ出掛けましょう。

昨年秋の「大人の修学旅行」の様子

今年で7回目となる「大人の修学旅行」はこんな日程で開催予定です。行く方、行けない方も、どうぞご覧下さい。

いつもなら、人吉市役所に集合ですが、熊本地震で市役所が崩壊寸前なので駐車場にも近づけない。そこで集合場所は**人吉駅**にしましょうね。

朝8時30分出発ですから、おトイレ、お茶持参などされたうえで、8時20分までにはご集合になり待機中のマイクロバスにお乗りください。前田一洋先生がマイクロバスのマイクのスイッチを入れたら出発進行。

先ずは、山江村は**高寺院**（たかてらいん）へ。

高寺院は、矢瀬氏（相良家が来る前のお殿様）が建てたといわれる寺院。

ここには国重文に指定された毘沙門天象が御鎮座。平安末期の作か。その資料館に入ることが出来れば、御対面となる。これから交渉致します。

高寺院の近くには山田大王神社や合戦嶺（かしのみね）観音堂もあり、そのお話も前田先生から聞きながら、さあ、先へ進みましょう。

フルーティー道路を使って奥球磨へ。

須恵諏訪神社に足を留め、それから先ずは、**普門寺**（25番）。そして近くの**里宮神社**で柏手パンパンと参拝。

真剣に聞く修学旅行生の皆さん

そこから一気に**城泉寺**へ。

阿弥陀堂に入って、神妙な面持ちで前田先生のお話を聞きましょう。ここの阿弥陀様を見たまま、直ぐに、

多良木の**青蓮寺**（しょうれんじ）の阿弥陀堂へ向かいます。

多良木町の蓑田さんがお待ちですよ。

同じ阿弥陀三尊様ですが、どこかが違います。どこが違うのか、ご自分の目でしっかり確かめて下さい。

これが、今回の目玉です。

さてそこから、**王宮神社**に参拝して多良木駅前の石倉へ。ここでお昼のお弁当を皆さんと一緒に食べましょう。

多良木町の蓑田さんがお弁当や石倉の手配をして頂きます。

さて、午後からはあさぎり町は旧上村へ移動です。

日本三大薬師といわれる**谷水薬師**へまいりましょう。楼門の中の仁王さんに、紙をかんで自分の弱い部分に投げつけます。その紙が仁王のさんの体にくっつけば、投げた人が健康になる！　と昔から言われています。

記念撮影（昨年秋）

そして薬師堂の中の、黄金の秘仏をご覧頂きましょうね。日頃は見せていただけない秘仏ですよ。

そこから、**白髪（しらが）神社**に参拝して**宮原観音**（29番）。

最終地は、錦町の**新宮寺**（32番）の六観音様をご覧頂く旅です。

観音巡りをしながら、その地区の神様にも参拝する「神さん、仏さんまいり」の大人の修学旅行です。

春の彼岸に、いざ、行かん。

―まとめ―

開催日：3月20日（春分の日）
集合場所：人吉駅
出発時間：朝8時30分
参拝予定の神社仏閣：
高寺院、須恵諏訪神社、普門寺、里宮神社、城泉寺、青蓮寺、王宮神社
昼食（多良木町石倉）
谷水薬師、白髪神社、宮原観音、新宮寺。（神社、4社。寺院、お堂、7ヶ所。計11ヶ所。お弁当、旅費込みでお一人5千円）

お申し込みは、宮原はり灸院（0966・23・3067）まで、お電話くださいませ。締め切りは、3月6日と致します。

【みやはら・のぶあき／人吉おおくま座の会事務局長】

方言を味わう⑧

球磨弁のオノマトペ

前田一洋

オノマトペとは実際の音や様子などを言葉にした語。次の会話から探してみましょう。

○ギャージ

「まだちったヘタなるいどん、今朝どまウグイスの鳴きおったばい」「聞いた聞いた、まいっ時すればホーホケキョちゅうて、上手に歌うとないどん。今朝聞いたとどまホーケキョちゅうて、どこか足らんじゃったもん」

「山や行けばギャージちゅう鳥のおっどがな、ギャーギャーちゅうて鳴くとの。あっが本当ん名は何ちゅうとかにゃ」「カケスたいカケス、昔のはやり歌にも♪泣けた泣けた堪えきれずに泣いたっけ、あの娘と別れた悲しさに山のカケスも泣いたっけ、ちゅうとの」

そうですね、ここに出てきた「ホーホケキョ」とか「ギャー」などの鳴き声です。カケスの鳴き声ギャーギャーが、ギャージという方言名になってしまいました。そうした例がパタパタから旗が、ピカピカから光などと。

○よちゃくわちゃ

「豆まきゃもう過ぎたとないどん、まだ冷やか日の続くとじゃろか、アカギレの痛うしてぬさん。ゆんべどま一晩中キヤキヤして眠られんじゃったとばい」「アカギレやら霜焼けはぬすこっじゃなかな。痛かともぬさんどいどん、ちっと温っかければムズンムズンしてイジ痒ゆしてばい。早よ春の来んかにゃー」

「うんにゃ、おらもう飲みゃえんばい。こないだのごと、よちゃくわちゃしなって戻れば、カカからこさぎ出さるっでな」「そのよんよめごにオドオドしとっぐりゃいろきゃ。グダグダきっかやしゃいた時や、あっちゃこっち叩き出やてくるればよか。さき、ググーッといきない、どこ残そきゃ、ほグーっと」

キヤキヤ、ムズンムズン、聞いたばかりでその痛さやムズ痒いさが伝わってきますね。本当はよちゃくわちゃなるまで飲みたいのでしょうが、山の神の形相を思えば。おとこ男オドオドせずに、グググーっといきないよ。

○プンプン

「こないだはどぎゃじゃったな、やっぱカカしゃんのツノ出しないたな」「そいくさ、ツノ出せヤリ出せじゃったい。ソーダ饅頭よまプンプンさでふくれさみゃん、おまいがぐと焼酎のプンプンするもんな、家の中にゃ入れんちぃさみゃん。夜中まで牛小屋にしゃぐうどったたい、牛ん屎のプンプンすって」

「その明くっ日ゃどぎゃじゃったな、やっぱふくれたなりじゃっつろか」「じゃっどこっじゃなか、朝からツケンツケンしてモノいっちょ言わんとじゃでな。おがメシちゅうたっちゃ、聞こえんふうしてプイと横向ぃたなり」「実アおいぎゃも同じこと、おまいと飲うだ晩から、カップラーメンばかったい」

同じプンプンという擬態語でも、いろいろと使いようがあるのですね。飲む時はいいのですが、山の神がプイとしたりツケンツケンにならぬ程度を心得ておくのも肝心ですな。

○グスとゆんぬる

こうした擬音や擬態を表わすオノマトペ、短い言葉で、大きな効果を発揮することが。

「ピシャッとせんかピシャッと」「おが姿ば見たもんじゃって、あやつがグスとゆんぬってはってーたとぞ」「ばばしゃんの、ガゴじょのごーざるばい、ちゅうて言いなれば、こめんか子はチャキと泣き止みおったでな」

それでは次のオノマトペは、どんな時に使われるのでしょうか。

シャンシャンやって ①鈴を鳴らして ②着飾って ③硬直して

ポンポラポン ①狸の腹鼓 ②空き巣狙い ③開け広げ

スッテンパッタンいかん ①にっちもさっちもいかない ②坂から転げ落ちる ③片足跳びができない

ツケンツケンしとっやる ①焼肉のたれを惜しむ ②無愛想 ③電気を点けたり消したりする

ズレンクワラン ①だらしのないさま ②二日酔いで飲食がすすまない ③伸び切った状態

答えはじいちゃんおばあちゃんに聞いて。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

荒瀬ダム撤去経過報告
―この1年の変化と今後の課題―

豊かな球磨川をつくる会　つる詳子

去年の元旦には、堤体の右岸部分はすっかり撤去され、昔の澪筋は戻っていましたが、左岸半分には、堤体と門柱上下部の巨大な柱４本が残っていました。１月以降の工事では、発破作業により順次倒されては、破砕機で細かく砕かれ、導水路であったトンネルに埋め戻され、アユの漁期に入る６月前には、門柱はすっかり姿を消し、河川内の工事はお休みになりました。

去年1月の荒瀬ダム

今年１月の荒瀬ダムの様子

11月からの工事開始で、左岸部分の堤体は頻繁に行われる発破によりヒビを入れては、破砕するという作業が続いています。今年になって30数回実施予定もほぼ終わりに近づき、左岸の撤去工事は本年度中には終了する予定です。

鳥や魚、子供も戻ってきた支流

川と海の変化

日経新聞が12月19日の全国版で「ダム撤去　清流復活」という見出しで取り上げていましたが、その中で、県の調査でも、川の底生生物は撤去前と比較して７倍に増えたと報告しています。実際、水の底に生きる生き物たちは大変増えています。支流における増加は種数ともに目覚ましく、それもきれいな川にしか住まない種が増加しています。

特に一番大きな支流である百済来川の再生は目を見張るものがあります。沢山の小魚が泳ぎ、それを狙ってコサギも沢山集まってきて、見ていると次から次に小魚をキャッチしています。清流を生息域とするヤマセミやカワセミ、カワガラスの姿も良く見られます。

渓流の代表トンボであるミヤマカワトンボが川面を飛ぶのを見ると、川の再生が実感できます。この支流の再生が素晴らしいのは、植生にあります。本流の河原に生育し始めた植物の多くが外来植物であるのに対し、この支流では、ダムのない川の河原で失われつつある在来種が戻ってきていることです。絶滅危惧種である植物種も見られます。清流が戻ったからといって、親水を目的に安易に手を入れることなく、懸命な保全方法を講じてほしいものです。

子供が戻ってくるのもとても早かったのがこの川で、今では夏休みになるといつも遊ぶ子供たちの姿を見ることができます。

干潟の改善も目ざましいものがあ

ります。特に球磨川の左岸は早くから回復し、大勢の人が入れるようになったために、干潟は攪乱され、折角蘇りつつあった生き物の捕獲量が再生に追いつかない状況が発生しています。今では、干潟表面近くに生息する貝やカニは減少し、深い巣穴を掘るアナジャコばかりになっています。しかし、人があまり入らない場所においては、ミドリシャミセンガイが一番の優先種といえるぐらい増えています。荒瀬ダム撤去前の数十年はみることがなかった絶滅危惧種で、全国でも少なくなっている種です。ともかくも、砂地が増え、ハゼや魚の稚魚等は増え、干潟のゆりかごとしての機能が復活していることを感じます。

営業再開した「鶴の湯旅館」

しかしながら、昨年は魚の漁獲量は今一つでした。多くの漁師さんが、先の熊本地震で海底の地形が変わり、そのせいではないかと報告しています。

また、旧坂本村に元気がでてきました。ずっと閉まっていた木造三階建ての「鶴の湯旅館」は営業が再開され、地域外からの訪問者だけでなく、坂本町の若者のたまり場となっています。また、町の活性化を考える「１００人委員会」でも多くの若者が参加しています。

今年から、新しいレジャー、ハイドロスピードも本格的にはじまりました。

再生を妨げるもの

ダム撤去により清流も干潟も戻りつつありますが、まだ多くの課題があります。その筆頭は何と言っても瀬戸石ダムです。このダムがある限り、親アユが産卵のために下れるのは、産卵期に大雨などでゲートが開けられている時だけです。普段は全く下ることができません。また、

瀬戸石ダムのゲート全開で復活した流れ（今年１月）

下流に流れてくるのは、ダム湖で汚れた水だけなので、水質改善にも限界があります。

折角復活した河原の石も、瀬戸石ダムが上流からの供給をストップしつづけるのであれば、次第に流され再び無くなっていくのではと心配されます。

冬季にあたる現在、瀬戸石のダム湖ではゲートが全開され、土砂除去作業が行われていますが、本来は海に辿りつくべき土砂です。別の目的に利用せず、瀬戸石ダムの下流や海に戻してほしいものです。

もう一つの大きな問題は、流域の森林の荒廃です。その原因は、林道建設や間伐などの手入れ不足、そして何と言っても深刻なのがシカの食害です。林床がむき出しになり、大雨時に倒木や枯れた枝葉とともに流される表土の消失は、川の再生を遅らせるだけでなく、流域の自然の恵みをも奪っており、とても深刻です。熊本県、流域自治体の早急な取り組みが求められます。

現在、瀬戸石ダムのゲートが開けられ、たった2ヶ月で川底までみえるような清流が戻っています。瀬戸石ダムが撤去され、流域に健全な森林が戻ってくれば、どんなに美しい球磨川が戻ってくることでしょう。

【つる・しょうこ／八代市】

瀬戸石ダムと流域の課題

豊かな球磨川をつくる会　内田次一

つる詳子氏の「荒瀬ダム撤去経過報告」本誌54頁以下で指摘されていますように、荒瀬ダム撤去工事の進捗を通じて、瀬戸石ダムの問題点が浮き彫りになってきました。同論考と重ならない範囲で、同ダムの状況と課題を考えたいと思います。

1、堆積土砂の除去

国土交通省は、平成14年（２００２年）から2年に1度の頻度で定期検査を開始し、調査ごとに、「ダム及び当該河川の安全管理上重要な問題があり、早急な対応を必要とする」とし、「ダム湖の土砂堆積により洪水が発生する恐れがある」と指摘してきました。しかし、同ダムを運営する電源開発株式会社はこの指摘を無視し、平成23年（２０１１年）まで対策を講じなかっただけでなく、計画もつくりませんでした。同年、荒瀬ダムの撤去が確定し、瀬戸石ダムの水利権更新についても更新反対の動きが強まるなかでようやく堆積土砂の除去計画を立案しました。土砂の流入量を過小評価した計画で、同社はその計画を変更せざるをえなくなりました。新しい計画に基づいて、現在、堆積土砂の除去作業が実施されていますけれども、まだ不十分です。落武者伝承で有名な箙瀬（えびらせ）の場合、川床は瀬戸石ダム建設前よりも4メートル以上高く、「箙瀬」の瀬は復活していません。

現在の箙瀬。土砂が堆積し瀬ができていない

2、土砂除去作業の状況

それでも以前に比べますと、除去作業はすすんでいます。今年度の場合、連日、11トントラックを30台、1日9往復、累計２７０台を利用して作業しています。除去した土砂は当初は神瀬小学校跡、その後、箙瀬地区の私有地、現在は芦北町の山中に運び、そこを「仮置場」にしています。仮置場の土砂の状況は完全に調査できていませんが、土砂崩れの危険性を否定できませんので、注意が必要です。

土砂除去作業

3、土砂崩れ

瀬戸石ダム設置地域は土砂崩れが発生しやすい場所です。「瀬戸石崩れ」などの過去の例を示しつつ、電源開発に現在の場所はダムを設置するには不適切であるとくりかえし指摘してきました。同社は「最適の場所にある」との立場を崩しませんでしたが、現実には、平成27年（２０１５年）８月25日に台風15号の通過にともない同ダム附近で大幅な土砂崩れが発生しました。同社はさすがにこれについては国土交通省に報告しました。これについて同省八代事務所は「表層崩壊であるから大丈夫」というおどろくべき回答をしています。このとき肥薩線が25日間運休したことは記憶に新しいところです。それを表層崩壊で片付ける国交省の姿勢には驚くばかりです。

瀬戸石ダム近くの土砂崩れ

4、球磨川は宝

同ダム上流の住民は、洪水被害に怯える生活からの脱出にこれまでもっとも関心を寄せていました。生命にかかわりますので当然です。しかし、堆積土砂の除去がすすみはじめるなか、球磨川を利用した地域再生も課題になってきました。瀬戸石ダムができたことにより住民の生活は一変しました。目の前に球磨川が流れているのに、それをまったく利用できません。球磨川を通じての地域を再生するという発想もでてこない状況にこれまでありました。けれども、それでは流域の集落は消滅します。「できて故郷消滅する」は避けなければなりません。今後、流域を再生するには瀬戸石ダムを撤去するしかない、わたしたちはそう考えています。

【うちだ・つぎいち／八代市坂本町】

防衛活動

久馬　俊

男と女は磁石のようなもので、放っておいても、くっつくと信じていたら、そうではなかった。女子と接するのを「面倒くさい」という男子が多いらしい。自分の時間を大切にしたい、恋愛は時間のロスだと感じているようだ。男子だけで遊ぶよりも女子と遊ぶのが楽しいに決まっていると信じてきたけど、そうではなかった。それどころか、男子だけで遊ぶのも「面倒くさい」という。

最近の新聞によると、外出せず、自宅にひきこもっている。これでは女子とつきあうどころの話ではない。まずは、外に出て遊ぶことから始めなければならない。こうした状況は、よくいえば孤独を愛する若者が増加していることになる。一人の時間は確かに必要だけども、いつも独りだと辛いように思うが、孤独を愛する若者はそう感じていない。世知辛い世の中になったので孤独を愛する若者の気持ちが分からないではないが、外出まで避けることはあるまい。

孤独を愛する若者は「草食系男子」に多く、そういう男子にはたまに肉を食べないと栄養のバランスを崩れるよと忠告したくなる。もちろん草食の者に、これから直ぐに肉食に変われといっても上手くいくわけがない。ジャングル大帝レオに草食になれといっても無理である。いろいろな物を食べること、悪くいえば「雑食」がいちばんいい。しかし「雑食」は言葉のひびきが悪すぎる。他人から「キミは雑食だね」といわれたら、きっと、ムカつく。なにか、いい言葉はないか。

恋愛したがらない若者、外に出たがらない若者の増加について、若者の防衛活動の結果だと知人は難しく説明する。孤独を愛さなければ窒息死してしまうから無意識のうちに、そうした行動を選んでいるのだというのだ。せっかくの知人の説明である。「防衛活動」という用語をメモしておこう。

恋愛はもちろん公役・苦役でない。しかし、若者よ、恋愛を怖れるなかれ。恋する娘は美しい。恋する男も輝いている。たぶん。

【きゅうま・すぐる／八代市】

「資料発掘」　荒瀬ダム関係①

編集部

①昭和29年12月11日付熊日新聞は、「ダム詣で大賑わい」とのタイトルで次の記事を出した。

「急流球磨川は十日午前一時県営藤本発電所荒瀬ダムの水門で見事に締切られた。ダム内面は刻一刻と水カサを増してゆく。

渓谷の朝靄が冷たい風に吹き払われるころ地元の八代郡上下松求麻村葦北郡百済来村の村民、なかには湖底に家を残す水没者や付近小中学校の生徒たちが両岸道路一帯に続々とダム見学につめかけ、時を追って八代市方面から、また県内外からダム詣でがいつまでもごった返した。特に晴れ着の装いで杖をひいた老母達の姿が目をひき、〝よか見物した〟と見るものすべてどえらい造り物に驚嘆していた。

減水のため下流は細々とした一筋の流れを残してすっかり石の河原に変わってしまい、水の引くのを知らないで逃げ遅れた小魚が河原で子どもたちのよい獲物になっていた。名物筏流しも九日でさよならし、製材、木材業者、筏師達も締切の状況をみて感慨深そう。今後は筏流しは鎌瀬付近からポンポン船でひつぱってダム地点で陸揚げ、トラック運送になる。一たん締切った水門は興国人絹八代工場用水に少し当て洪水量の四分の一約十トンを放水した。

こうして県民の注視を集めた大事業は県民の手によって完成した。」

②昭和29年付熊日新聞夕刊は、「歴史的な水門閉塞　荒瀬ダム　球磨川電源開発に凱歌」で以下の記事を掲載した。

「県営藤本発電所建設工事の燕尾をかざる荒瀬ダムの水門閉塞は十日午前一時を期しておこなわれ、悠久の流れを続けてきた球磨川は完全にその流れをとめた。近代科学の粋を集めて球磨川の渓谷に挑んだ電源開発の大事業も、歴史的な深夜の完全締切りによって、これまでの動的な建設に一応終止符をうち、静的な完成品にかえった。●●にして十八万トンというから、かっての戦艦大和の三倍、長さ二百十八メートル、高さ二十七メートルの大堰堤は去る五日に完成、ただイカダ流しの通路として四メートル平方の仮配水路一門があけられていたので、これに鉄の門をおろして完全に締切ったもの。こうこうと輝く電灯と報道陣のたくフラッシュに照らしだされた巨大なダム、寒波のしじまをやぶってわき起こった〝万歳〟の歓呼とともに八つの大水門（ゲート）も静かに降りて軽く球磨川をせきとめた。昨年三月十日の起工式から一年九ヶ月間、夜を日についだ突貫工事だっただけに、この一瞬をじっとみつめる上坂県総合開発課長、林田県総合開発事務所長らの感激した面持も印象的だった。

平均、毎秒二メートルの流速、毎秒四十トンの球磨川がここに完全にせき止められたため、ダムの下流はたちまち減水、逆に上流は刻々と水かさを増して、早くも十日の朝には水位二十二・五メートル（標高）に達し湖水の姿をあらわしてきた。

なお十二日には湖水面は三十二・五メートル（ゲートの上部から一尺下まで）に達し取水口から送水隧道を通って発電所に流しテストを行いいよいよ二十五日の発電開始を迎えることになった。三十年間ダム工事と取組んできた林田球磨川総合開発事務所長は水門閉塞作業が成功したあと感慨深くそうに語った。

十四、十五回も洪水を受けてこんなに早くできあがった例は全く珍しい。おそらく全国でも短期完成の筆頭になるであろう。現場事故による死亡者も十一名をだしているが、少ない方でありダムの傍らに慰霊塔をたてたいと思ってる。土地収用法の発動など紛争もみないですんだことも関係者の理解と協力によるものです。私としては全国各地でダム建設に従ったうち、球磨川は第八番目だったが、名にしおう●流と出水、減水の早いのに驚いた。イカダは十日から陸揚げしてトラック運送になる。」

（注）●は判読不能の文字

新市庁舎づくり：これからの人吉のために
＝人吉市役所・新庁舎に本格木造を希望する理由＝

人吉市　松本晉一

今、人吉市役所・新市庁舎は基本設計の真最中だと思われます。この2月4日には「人吉市市議会報告会・意見交換会」が開催され、そして6日からは基本計画案についての意見募集も始まります。この地で育ち、この地を愛する一市民として、前回に引き続き、新市庁舎建設を本格木造で希望する理由を書いてみます。

1、隈研吾氏（建築家、人吉球磨日本復活協議会アドバイザー）の言葉から

隈氏は昨年12月20日、球磨工業高校の講演で、「コンクリートの時代は終わり、木の時代が来る。自信を持って世界で活躍してほしい」と球磨工生たちに言われました。新国立競技場の設計も「日本中の木を使うが、復興五輪と位置付け、特に熊本地震など被災地の木を大切にしたスタジアムになる。今後、地球温暖化抑制などの面から木の時代が来る。君たちが世界で活躍する時代」と語られました。（人吉新聞16―12―21）

このように、もうコンクリートや鉄骨を中心とするハードな構造材だけで建造物を造る時代は次第に終わりを迎えようとしています。幸い、この人吉球磨は豊富な林業・木材業、そして専門家（大工さんたち）の宝庫です。しかも日本遺産の土地柄です。この資源・資産をどう活用するか、今回の新市庁舎づくりに、この観点をどう生かすかが大事だと思います。

本格木造による新市庁舎建設のメリットは

1、木造でも災害に強い耐震、耐火の大型建造物が可能である

2、地域の木材資源がしっかりと活き、独自なデザイン設計が可能

3、まだ今ならば、地元の伝統木造技術と大工さんが活かせる

4、木には百年、二百年の寿命があり、改築、補修も容易である

5、木造そのものがヒト（市民や職員）に優しく、仕事にも潤いが増す

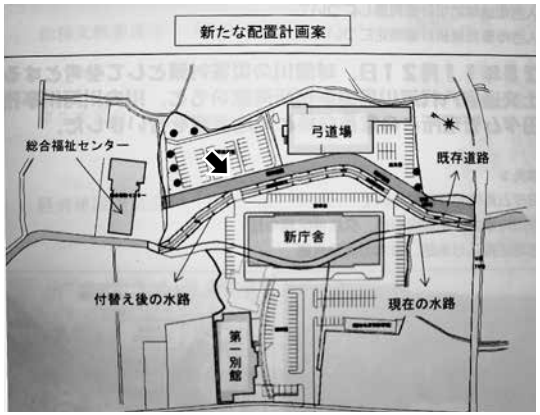
6、木造公共建築が広く地元の産業振興につながる

7、木造建築は人吉の町の歴史と景観にマッチする

8、木造新市庁舎そのものが人吉や当地域の象徴（ランドマーク）、さらには他所にない地場産業の広告塔となる

9、時代を経れば、木造新市庁舎そのものが後世に誇れる資産・財産となる

10、基本設計、実施設計からのこの新市庁舎づくりが、市民参加と情報公開、地元住民のコンセンサスづくりにつながる



新市庁舎配置案

建設予定地方向（上↘撮影位置）

これらの木造建築の持つ利点を元に、各種木材団体や業界、県内各地の市民から、木造新市庁舎建築に向けて多くの陳情や要望のエールがあったのです。

2月4日の市議会報告会の、市庁舎建設に関する特別委員会の意見交換会では、新庁舎の配置計画案（左上図参照）

が提示されました。永山芳宏委員長、高瀬賢一副委員長他各議員の皆様に、この本文をお渡しし、木造庁舎の利点をご説明して、ぜひ実施設計図面には〝本格木造市庁舎の設計図〟を設計担当者に提出してもらうようにお願いを致しました。

2、「東京都は変わるのか」上山信一氏（都政改革本部特別顧問）の言葉から

昨年12月21日付の朝日新聞で、上山氏は豊洲移転問題を「石原都知事時代は、部下に全部お任せ、議会のチェックもなく、なあなあ主義、このくらいでよかろうと慣れ合いで進んできた。組織をきちんと統治して情報公開をすること」が重要だと語っています。

〈そのためには＝行政へのお任せ、慣れ合いを防ぐこと〉

・このこと（新市庁舎建設）に市民、周辺の住民、郡県民の皆さんが関心を持ち、市長や行政の先行、独断、偏りを注視する

・基本設計から実施設計に向けて、私たち（市民）はどんな建物（新市庁舎）を望むのか、パブリックコメント（意見募集）で、市民のイメージデザイン、要望をしっかりと伝える

・市民や各団体からの、これまでの木造での要望が基本設計や実施設計図面に反映されているか

・市役所のやっていることは、私ども市民のことです。市議会や関係者にタフな交渉を求めて、積極的に各プロセスの情報を開示してもらい、内容に不透明な部分がないか、を市民がしっかりと把握すること

以上のことが、基本計画、実施計画の策定には大切だと考えます。

市庁舎建設委員会報告（２月４日）

まとめ：本格木造・新市庁舎建設のねらい

今回の新市庁舎建造は、単なる市役所という建造物の構築だけ、その機能と役割だけではないのです。各市民の皆さんが自らの手で、行政と共に、次の世代に向けて誇りと伝説になる、ユニークな木造市庁舎を造ることです。

すなわち、この本格木造・新市庁舎造りは「この人吉の町の伝統 Tradition、品性 Noble、文化 Culture を創ること」につながるのです。この来るべき新市庁舎建造を〝人吉文化創造の起点〟にすることです。そうすれば、後の世には、この木造市庁舎そのものが〝歴史的遺産 Historic Heritage〟となり、大いに評価されることでしょう。合成木造建築（ＣＬＴ材など）の利用だけではなく、他所にはない、当地独自の本格木造新市庁舎を目指して欲しいのです。

そして基本設計、実施設計は、あまり目先のこと（コントロール出来ない自然災害、敷地、完成工期、予算枠ほか）だけに捉われないで、ぜひ、多くの市民、議会、住民の意見、考えを取り入れて、後世に悔いのない、人吉らしさを有する、価値ある新市庁舎を、しっかり議論して創って欲しいと思います。今月６日からの市庁舎基本計画案の意見募集にも、この本文内容を応募の予定です。

本格木造の新市庁舎を創るためには、多くの困難、問題点へ遭遇することになるかもしれません。しかし、この解決こそが、木の文化の再発掘と人吉の町を発展させる好機となるものと信じます。

平成29年２月６日

旧市役所横のユーカリ

※この文面と内容が、読者の皆様、市民の皆様、行政関係者ほか、多くの皆様方のお目に留まれば幸いです。また多くのご意見、お考えをお聞かせ下さい。

連絡先：人吉市九日町１１５
松本晉一（まつもと・しんいち）
電話０９６６―２２―２９２８
Fax ０９６６―２５―１３６０
Email：smatsu@fsinet.or.jp

外来語から学ぶ英単語（11）…… 藤原　宏

オクトーバー・オクターブ・オクテット・オクタゴン・オクトパス
October　octave　octet　octagon　octopus

共通する前綴「**oct-**」は語源のギリシャ語「**okto**（オクトー）、８」に由来します。

B.C. ８世紀頃のローマの暦法では、１年は 10 か月で、「**October**（オクトーバー）、10 月」は８月のことでした。これを **B.C.** 46 年に、ローマの英雄 **Julius Caesar**（ジュリアス　シーザー）が、１年を 12 か月に改めると同時に、７月を自分の名前から **July**（ジュライ）とし、８月にはローマの第１代皇帝となった **Augustus Caesar**（オーガスタス　シーザー）の名前を取って **August**（オーガスト）を当てました。その結果、次のような月名の移動が起こりました。

「**September**（セプテンバー）７月→９月」
「**October**（オクトーバー）８月→ 10 月」
「**November**（ノーベンバー）９月→ 11 月」
「**December**（ディセムバー）10 月→ 12 月」

「**octave**（オクターブ）、８度音程」「**octet**（オクテット）、８重奏（唱）曲（団）」「**octagon**（オクタゴン）、８角形」「**octopus**（オクトパス）、タコ・蛸」など、**oct** がつくものは数字８と関係があります。　**(377)**

球磨の珠玉

長年にわたり地方紙の記者として政治、文化、教育など、幅広い分野から情報を発信した著者の珠玉のコラム集。14年間「週刊ひとよし」の巻頭を飾ったコラム370本を精選した一冊。

カバー写真／山口啓二

■A5 判／上製／400 頁
■定価 2,100 円（税込）
送料 200 円

人吉中央出版社

伊勢戸　明 著（企画＝人吉球磨総合研究会）
くま春秋
――人吉・球磨を見つめつづけて
発行・人吉中央出版社
発売・風行社

鶺鴒（せきれい）短歌会

一月詠草

足もとの玉砂利の音ここちよく夜神楽舞に心奪はる
夢ひと夜よ明けと共に消えて行く追いかけし恋秘かに甦る
守永　和久

水煙る女郎が浜のあさぼらけ水鳥の群身じろぎ見せず
年の瀬を日向の郷でおくらむと訪れしこと五年となりぬ
河内　徹夫

傘寿過ぎ俄に齢を思ふ日々「老いは足から」歩行に励む
部活の友齢は違えど永遠の仲深き縁に今も結ばれ
中村美喜子

イプシロン我が庭からの天体ショー一つが三つに束に散りて
新春の酉年祝い飛躍せむ吾は傘寿の笑顔の翁へ
西　武喜

無人駅住みし人の残したる紅葉盛りに人影もなく
夫と行く久し振りの初詣願は一つ孫の合格
釜田　操

正月を指折り数へ待った日の幼き頃がなぜか偲ばる
新年は静けさの中夜も明けて外気の風も新鮮に感ず
緒方　保正

同窓会遠路の人に感謝され話も弾み盃交はす
お互いを昔の呼び名で呼んでいる歳は取っても昔のままで
中原　康子

傘寿会みんなにこにこ笑みうかべ童顔なりて校歌を歌ふ
八十路まで病と共に生きて来し今年の坂も登ってみたい
三原　光代

初日の出茜の雲も輝きて神々おはすか高千穂の峰
イプシロン宇宙に旅立ち茜色夜明け告げるや日本の科学
橋詰　了一

我が妻の介護に時間（とき）の締まりて慌ただしくも初春迎ふ
映像の除夜の鐘聴き振り返る個展に集いし友等の顔を
堀田　英雄

不知火海の自然・生活（6）

陸になった島②「鼠蔵島」

自然観察指導員熊本県連絡会会長 つる詳子

球磨川河口を八代市内から見た時、右岸に目立つ島がある。大鼠蔵島と小鼠蔵島である。鼠蔵と漢字で書くと、市外の人にはまず「何と読むんですか?」と聞かれる。「そうぞう」もしくは「そぞう」であるが、今は「そぞう」が普通のようだ。この二つの鼠蔵島（そぞうじま）ももちろんかつては八代海に浮かぶ島であった。

鼠（ネズミ）のすむ島

鼠蔵という名前からも、名前の謂われは鼠に纏わっている。谷川健一はその書「列島縦断地名逍遥」の中で、「江戸時代の旅行家である橘南谿の紀行文『西遊記』の中に、肥後と天草の間の不知火海に鼠島という小さな島があり、そこには昔から鼠がおびただしく住んでいて、近くを通る船は三味線を弾くことを禁じられたという話が載っている。禁を破って三味線を弾くと、波風が起こって船が沈むような危険にあうという。三味線は猫の皮を張ったものであるから、鼠が嫌うのだと説明されている」と記している。また、『肥後国誌』の中の一文「鼠蔵島俚俗かくれ里と言い、鼠多し。近年加賀島に移るという。この島にて、猫の声を禁ず」も紹介し、鼠蔵島を「鼠がはびこる島」として纏めている。

柳田国男も、また、著書『海上の道』において、この『西遊記』と『肥後国誌』にある鼠蔵島に関する記述を引用して紹介している。

余談ではあるが、柳田国男は『海上の道』の中で、『肥後国誌』にある加賀島の記述に触れ、「この辺の海は遠浅でだんだん埋め立てられて行くので、鼠蔵の方は夙（はや）くから陸続きになった。加賀島は少し離れていたから、一時鼠はそれへ引移ったのではあろうが、これもどうやらもう新田場の外囲いになって、もう鼠ばかりの隠れ里ではなくなってしまったのである。」と書いているが、この加賀島は現在、前川の河口近くのニュー加鹿島計画地にある加賀島とは違うと考えるべきである。というのは、江戸時代の八代郡誌『人鏡考』にやはり鼠蔵島に関する記述があり、「可賀嶌辺ニモ猫ノ真似セシ事ヲ嫌フナリ、水嶌の間に小嶌アリカウゴ嶌ト云」とあることから、今も水島との間にある小さな無人島であると思われるが、不思議なことにこの島の名前は地元の人に聞いても知らない。ただ、今はこの島はアオサギの島になっているので、鼠は食べつくされてしまったかもしれない。

球磨川河口にある大鼠蔵島（左）と小鼠蔵島（右）

今は田んぼに囲まれた小鼠蔵島

鼠蔵島の自然

西にある大きな大鼠蔵島（おおそぞうじま）は、南北約４００ｍ、東西約２００ｍ、標高48ｍ程、一方、東にある小鼠蔵島（こそぞうじま）は南北約１００ｍ、東西約２００ｍで、弘化４年（１８４７年）、両島とも沖の洲島新地の干拓によって陸続きになったが、八代海の中で独

立していた歴史の方が長く、両島とも今もタブノキ、クスノキ、アラカシなどの照葉樹林に覆われている。海岸に見られるトベラ、マサキも多い。大鼠蔵島の南の橋は、球磨川の右岸の先端にあたるが、ここにある巨大なアコウの樹は、樹高14ｍ、幹回り7・9ｍもあり、県内では3番目、全国でも20番目の大きさを誇る。樹齢３００年以上といわれるこの樹は、球磨川の玄関口の景観に一役買っている。

樹齢 300 年を超えるアコウの巨木

干潮時ともなれば、大鼠蔵島の西側である球磨川の右岸には広大な干潟が広がり、八代海を挟んで天草の島々が見える。日没時の景観はすばらしく、夕焼けスポットの一つでもある。この大鼠蔵島から西に広がる金剛干潟は、シギ・チドリに関する国際的なネットワーク「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ」に平成16年参加認証され、シギ・チドリ等渡り鳥の貴重な中継地となっている。キアシシギ、ソリハシシギ、チュウシャクシギをはじめとする42種類のシギ・チドリ類を含む、１３５種類の野鳥が観察されている。

大鼠蔵島からみた球磨川河口と干潟

金剛干潟は、数十年前まで、アマモ場が広がり、様々な魚介類が採れた。大鼠蔵島だった集落では、20軒近くが漁業で生計を立てている。昭和40年ほど前までは盛んだったアサリ漁も徐々に衰退し、今は定置網と青ノリ養殖が主である。定置網には、スズキやコノシロ、ボラなどが入る。カニやイカ、エビ、タコなども水揚げされる。大鼠蔵島の港は、観光漁業「舟出浮き」の乗船場にもなっており、その季節の魚介類を堪能することができる。

大鼠蔵山中腹にある尾張神社

八代屈指の古墳群

両鼠蔵島は、古墳群でも有名である。大鼠蔵山には、約10基以上の古墳があり、そのうち2基が装飾古墳だ。

アコウの木の前の階段を登って行くと、頂上に続く山道があり、その途中に尾張神社があり、装飾古墳がある尾張宮古墳は、この社殿の下にある。今は埋められてみることができないという。そこを通り過ぎて、頂上にでると楠木山古墳がある。竪穴式古墳で、四角の囲いの隙間から覗くことができる。昭和27年、この山頂で耕作中、発見され、剣や刀子などに交じって人骨も出土した。葬られていた頭蓋骨の眼、鼻、口には美しい辰砂がいっぱいつめられていたという。どちらも、4世紀後期のもので、八代地方では最古のものだ。尾張神社横の説明板によると、更に、この山を囲むように12基の箱式石棺群もあり、一部は失われているものの、矢を入れた靫（ゆき）、短甲（たんこう）、太刀（たち）、円状（鏡？）が線刻された東麓1号石棺も見つかっており、現在熊本県立美術館に展示されているという。

一方の小鼠蔵島も、山頂に古墳1基、その周辺に箱型石棺5基の分布が確認されている。今も山頂に1基、石棺2基があり、装飾古墳だという。1号古墳は、羨道（えんどう）のない横穴式系の石室を持つ古墳として、貴重なものである。しかし、山頂までの登り道もなく、場所を確認することもできなかった。

ともかくも、鼠蔵島は、今なお孤島だった時の歴史を残し、目の前に広がる干潟には水鳥が集まり、不知火海や天草の島々を望める風光明媚な場所である。舟出浮きや、古墳群、橘南谿や柳田国男も注目した鼠に纏わる古い言い伝えを生かせば、観光地として脚光を浴びる素地は十分にある。鼠のゆるキャラでも作ったらどうだと、ありきたりの売り出し方しか思いつかないのは情けないが、八代市民にはもう少し関心を持ってほしい場所である。

【つる・しょうこ／八代市】

くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

元日に園田の山の落日は明日かくあれと空赤く染む
いつのまに年明けゆけば吾が先はまた一筋の道を歩まん
三原　竹二

お年玉「丸いのが好き」と四歳児小さき袋に一円ばかり
桜どき娘の嫁ぐ日奏でよう琴弾く日々に思いを重ね
坂本　ケイ

五歳の孫滑り台をば駆け上がる見とれ思わず拍手送りぬ
映画「母」の試写見し夫（つま）は監督に駆け寄りひしと抱き締めおりぬ
上田　廸子

「ただいま」と口々子らは駆けて来る学童舎温（ぬく）く頬も緩みて
独り居の八十路の父は弱れども雪の市房真向かい生きる
宮川しのぶ

墜落を不時着というスガ長官大本営となんら変わらじ
粛々と民意無視して進めゆく亡国政治止めるは我ら
吉岡　弘晴

新しき年を迎えて引き締まるアベ暴走の悪政止めんと
声荒げ居直ることの多かりき「共謀罪」の首相答弁
上田　精一

東京オリンピック⑩
会場と競技

荊田吉富

4　幕張メッセ

東京ビッグサイトで開催が予定されていたレスリングとフェンシング、テコンドーは千葉の幕張メッセに変更となりました。幕張メッセでは、レスリングとフェンシング、テコンドー。パラリンピックではゴールボール、テコンドー、シッティングバレーボール、車いすフェンシングが開催されます。

幕張メッセは敷地面積21万平方メートルの広大な敷地に「国際展示場」「国際会議場」「幕張イベントホール」の三施設で構成される複合コンベンション施設で国際展示場のホールは、千葉・房総半島の山並みをイメージして建築され、１９８９年に開業。最寄り駅はＪＲ京葉線海浜幕張駅です。

レスリングは１９６４年の東京オリンピックでは駒沢オリンピック公園総合運動場内にある体育館で、フェンシングは早稲田大学戸山キャンパスにある「早稲田大学記念会堂」で開催されました。

レスリングは１８９６年の第１回アテネ大会から始まった競技で、２０１３年２月のＩＯＣ総会で２０２０年大会に実施する競技からレスリングが外されることになりましたが、昨年９月のＩＯＣ総会で東京オリンピックでの残留が決定しました。

ゴールボールは第二次世界大戦で視力に障がいを受けた軍人のリハビリテーションプログラムとして考案され、視覚障がいの選手たちが行う対戦型のチームスポーツです。一チーム３名、攻撃側は鈴の入ったボールを相手ゴールに向かって投球し、守備側は全身を使ってボールをセービングする競技です。選手たちはボールから鳴る鈴の音や相手選手の足音、床の振動などを頼りに、攻撃と守備を交互に入れ替えて得点を競います。

【かりた・よしとむ／税理士・行政書士、東京都】

舟止め事件

（編集部）

寛政4年（1792年）4月1日（新暦5月21日）、雲泉普賢岳眉山が崩壊した。島原はもちろんのこと、熊本（肥後）でも多大な被害が生じた。いわゆる「島原大変肥後迷惑」である。死者・行方不明者は5千人を超え、人や牛馬などの死骸が有明海・不知火海を漂った。この悲惨な状況は予想外の問題を発生させた。

相良藩は、有明海の様子をみて、島原、肥後からの魚の搬入を「けがらわしい」として禁止したが、それが「塩不足」をもたらしたのであった。相良は山中にあるため、塩は海岸部から搬入せざるをえなかった。その塩は購入してまかなっていたほか、「塩漬けの魚」を利用して入営していた。

魚の塩漬けは食材の保存方法だが、塩の輸送手段でもあった。不相応に多くの塩を魚にまぶし、魚を購入する形をとりながら塩を入手する方法がとれた。「無塩（ぶえん）」はそのときのなごりで、新鮮な海の幸のことをさす。

要するに、「塩物魚」の搬入禁止は塩不足を必然的にもたらす。それだけなく基幹商品としての塩の性格から、塩不足は塩だけなく各種商品の高騰につながった。「けがらわしい」との意識（保健衛生的意識とはちがう）は自然であったかもしれないけれども、それが塩不足をまねくとは政策担当者は予想しなかっただろう。少なくとも、塩の「抜け荷」（密輸）」が相良領内で頻発することになろうとはまったく考えなかったであろう。しかし、現実にはそうした「想定外」の事態が発生したのであった。それに符号するかのように、球磨川下流の舟が相良に向かわない状況が生まれた。塩不足はこれによって一挙に深刻化した。塩漬けの魚だけでなく、八代塩屋で生産される塩がいっさい相良に入らなくなったのであった。

相良藩は、八代・植柳の仮屋（相良藩が細川藩から借りた「飛び地」。相良藩は「八代仮屋」とよび細川藩は「球磨仮屋」とよんだ）を拠点に中心部に「舟が上ってこない」原因の調査を進めた。当初、細川藩が黒幕ではないかと推測している（この様子をみると、細川藩〈松井〉と相良藩の関係は必ずしも良好でなかったようにもみえるけれども、断定できない）。

しばらくして、川舟の舟頭たちが相良藩に対して数項目の要求を提出した。舟頭たちは塩不足に苦しむ状況をみて意図的に「舟を止めた」のであった。現代風にいえばストライキである。

相良藩指導部は舟頭たちの要求を拒否し、塩の安定確保のため八代・塩屋以外からの塩搬入を検討し「天草塩」を購入することにした。搬入コストはかさむが、安値で金銭的には均衡すると判断した。しかしながら天草塩は品質面に問題があったほか、舟頭による「舟止め」は塩以外の物品の輸送にも影響することから、舟頭たちの要求を受け入れることにした。その決定により舟止めは終了した。

江戸時代には、武士階級（藩主権力）が強く、庶民は権力者の意向にそって生活せざるをえなかったようにみえるかもしれない。確かに、そういう場合は多かったであろう。しかし、同時に①「抜け荷」や②「舟止め」をする力も有していた。③舟荷から一部を抜き取る「犯罪行為」も時にはおこなった。もちろん、当時にあっても、そういう行為は正当化されるものでなかったが、現実には、政策担当者はそれを黙認せざるをえない場合もあった。

社会的分業の拡大は「交通関係」の拡大を前提にし、「交通」にかかわる者の力を強める。川は自然物だが、それを利用する（つまり、管理する）ためには、川を知り、川舟の運航を安定的にするための工夫（行路の選択、川底の整備を含む）、舟の操作方法を身につけた人材（熟練工）が必要になる。

熟練工の能力は「専門知」にほかならず、「専門知」は現実的な力に転化し、社会的勢力を獲得する。船頭にかぎらず、石橋づくりの石工たちもそうであった。

相良藩も細川藩（松井家）も治水・利水事業に取り組み、舟運の管理（課税と抜け荷対策）に力を入れた。流域各地に番所をおいたのはその一例である。相良藩の場合には、人吉―松本―大坂間―大瀬―神瀬―多武除に

番所をおき、細川（松井家）は、遥拝―萩原―徳淵―川口などに番所を設置した。八代・上柳の「八代仮屋（球磨仮屋）」は相良藩の最重要地で、明治４年（１８７２年）の廃藩置県時まで存続した。こうした幕藩的統治を形式的にみると強い支配が実施されたようにみえるけれども、現実にはそうでなく、民衆の対抗を受けつつあるなかでの「支配」であった。公的世界（公的文化）とともに、流域住民（舟頭を典型とする）の生活世界（生活文化）が併存し、両者の対抗のなかで球磨川の運用は実施されていた。

注
(1)近代以前の塩問題については宮本常一『塩の道』（講談社学術文庫など）参照。
(2)相良藩と細川藩の両境界地帯である「松求麻村」（八代市坂本町）には番所がなかった。そのため坂本経由の舟に松井は特別の課税を実施し、松井と船頭たちは緊張関係にあったが、それについては別の機会に触れる。

倉敷便り②

原田 正史

※本稿は筆者の調査に基づいた私見的論考として掲載いたします。（編集部）

岡山県早島町の地蔵堂石碑

倉敷地方において、最も明確な隠れキリシタン遺物と思われるのは、私が平成25年5月3日に発見した岡山県都窪郡早島町西南部に存在する地蔵堂の花崗岩製石碑です。なお早島町は、倉敷市と岡山市との境界線上に、倉敷市側に食い込んだ状態で位置する人口およそ1万2千人、面積は約7千平方kmの町であり、岡山県下でも稀にみる人口密集地です。名前が示すように江戸時代初期の干拓工事による周辺地域が陸地化される以前は、瀬戸内海に浮かぶ比較的大きな島だったのです。

石碑の正面には、南無阿弥陀佛と刻記され、元禄十二己卯年（１６９９）九月吉日の紀年が認められます。また十七人の念仏講の人達によって建造されたことが知られます。多分、元禄十二年という時代からすれば周辺地域の干拓工事完成を祝う意味も含まれていたのでしょう。

最も重要なことは石碑下部に存在する絵模様です。浮き彫りにされている8個の蓮弁よりなるその下端の蓮弁は、周辺部の状態が他の7個の蓮弁とは異なり、欠損欠落が生じていました。何故、この下端蓮弁だけに限って生じたのか、理由は不明ながらも、この下端蓮弁に欠損欠落部分を私の想像で補完してみると、明らかにダイヤ図形が出現するのです。すなわちこの絵模様は、隠れキリシタンの人達が天なる神へ、自分達がキリスト教徒であることを示す通信手段の一つとして広く使用していたダイヤ蓮花であると推定できるのです。

岡山県早島町のダイヤ蓮花石碑

したがって石碑絵模様がダイヤ蓮花であるすれば、石碑を建てた十七人の人達は、石碑をさも仏教信仰の講中のように見せかけながらも本当は、キリスト教信仰に命をかけた、紛れもない隠れキリシタンだったことになるのです。恐らくこの人達は、キリシタン大名小西行長によって培われた隠れキリシタンの本源地である牛窓地方（現瀬戸内海）あたりから新天地を求めて干拓事業の労働者として参加した農民達だったに違いないと思います。また早島町には町内各地には古い石碑類が多数存在しているのをデイサービスの帰路の車窓から見ています。その中には必ず隠れキリシタン関連の石碑が存在するに違いないと考えています。

倉敷移住後、地蔵堂石碑の現状確認のために早島町に赴きました。異状が認められたのは一番大事なダイヤ連弁だけでした。ダイヤ連弁だけが風化が進み、全体が殆ど平坦化していたのです。しかしこれは、自然現象であり諦めるより仕方がありません。次回はその他の隠れキリシタン関連の石碑類について記述します。

【はらだ・まさふみ／元人吉市文化財保護委員、倉敷市】

楮木のおばちゃん

上村雄一

坂本駅で、球磨村の楮木集落のおばちゃん（親戚ではない）と話す。

坂本（八代市坂本町）の病院に通院しているのだという。遠くからの通院だ。おばちゃんによると、球磨村には村営バスがあって、そのバスを利用して楮木集落の自宅から瀬戸石駅まで行くとのこと。同駅で汽車に乗り、坂本駅で下車する。坂本駅から病院までタクシーを利用する。診療が済み、薬を受け取ったら近くの商店（本田商店）に買物にいき、買物がすんだら、その店からタクシーで坂本駅まで向かう。坂本駅からは逆の行程で自宅に戻る。楮木集落は球磨川の右岸にあり瀬戸石駅は左岸にある。くまがわ八郎さんがお元気なときには、渡し舟を利用していた。八郎さんが引退してから村営バスを利用するようになった。

楮木と瀬戸石の間には橋はない。球磨村の村営バスは瀬戸石ダムを橋代わりにして楮木と瀬戸石駅の間を走っている。一見、なにも問題がないようにみえるかもしれないが、そうではない。ダムを橋の代用と考える「ダム代替橋」論にむすびつきやすいからである。自動車がない時代には川舟がその役割を果たしていた。しかし自動車社会の到来にあわせて道路がつくられてから事情が変わった。他地域への移動は、すべてにおいて、自動車を利用する風潮が圧倒的になった。

おばちゃんは、なにはともあれ、瀬戸石駅に向かう。そして瀬戸石駅から自宅に戻る。このルートはおばちゃんにとっては一番楽なのであろう。それにしても、長いルートである。瀬戸石駅から坂本駅までだけでもずいぶんある。途中には、鎌瀬駅、葉木駅もあって、坂本駅までは15キロ近くある。おばちゃんは80歳代半ばである。歩行量は多くなくとも、乗車・下車の回数は多い。そこで、「元気のいい患者さんですね」と話したら、おばちゃんは少しだけ笑った。

【うえむら・ゆういち／八代市坂本町】

マイ・文庫本

近代化と精神のありよう

白城松男

梨木香歩『家森綺譚』（新潮文庫　平成28年10月）

日本社会の近代化は明治維新によって始まる。徹底した近代化の途であったか封建遺制を残した「不徹底」の途であったかは別にして、維新を境にして、日本社会は質的変化をとげる。その維新から来年で150年である。

その途上、第2次世界大戦という苦い体験もした。敗戦は近代化の再編になった。戦前の精神は敗戦で失われたのではなく、現在も、連綿としてつづいているとの見方もあろう。そのようにみるとしても維新150年を通じての変化を否定する人はいまい。人は物事をデカルト的合理的精神でみるようになった。自然現象・社会現象はすべて分析可能であるとする精神が支配的になった。たとえば河童の実在を信じるものはほとんどいない。水難事故と河童をむすびつける思考は失われた。芥川龍之介は河童の実在を信じていなかった。芥川にかぎらず、多数の人はそうであろう。

物事は一挙には進まない。維新政府は制度（形）の設定から出発し、精神はそのあとを追った。「文明開化」が喧伝されても庶民はそれまでの精神生活を簡単には捨てなかった。それをタイム・ラグの一言でかたづけるのは簡単である。しかしそれでは近代的「知性」が確立する以前の思考を正確にとらえられない。

「綺譚」としているけれども、作者は人間は自然の観察者ではなくその一部であることに気づかせる。凡庸な言葉でいえば、本書はプレ・モダンであるだけでなくポスト・モダンの作品といえようか。河童、鬼、狸、狐、さらにはサルスベリなどの四季の草花との人間との精神的交流の世界を美しく提示している。それらの実在を確信したうえで本書をまとめている。主人公は文学学士の新米作家・綿貫誠四郎。「わたぬき」は「四月一日」のモジリだが、エイプリルフールの意図はない。いくえにも漱石をモディファイしている点もみすごせない。洋燈（ランプ）、二階屋、庭、池、駅、お寺、疎水など舞台装置もいい。

【しろき・まつお／八代市】

字遊空間②
辞典をたのしむ

平岡優平

1、近代

①大槻文彦『言海』
（近代）
過ギテ程歴又代、チカゴロ、近世

②岩波国語辞典第7版
（近代）
現代に近い時代、近ごろ。★歴史上、文芸復興以後、更に狭くは、封建制度廃止以後を指す。また現代と同じ時期をも指す。日本史では普通、明治維新から第2次大戦終結までを言う。
（近代化）
封建時代から近代に移る時代において、国家・社会・文化が、以前より市民的・合理的なものに変わること。

③三省堂国語辞典第7版
（近代）
①現代に一番近い世、②（封建的思想を抜け出した）合理化された時代、③（歴）近世と現代の間。日本では、一般に、明治維新から第2次大戦の終結まで。
（近代化）
解説なし

④新明解三省堂国語辞典第3版
（近代）
現代に近い時代。［広義では、現代を含む。また、歴史の時代区分で、近世または中世に続く時代。日本史では、通常、欧米文明の影響を受けた明治以後。］
（近代化）
封建時代の人間性無視・非合理性を廃し、個人の生活・思想における自由を重んじ、設備の機能化、エネルギーの節約を図るようにすること。

⑤角川必携国語辞典
（近代）
近世と現代のあいだの時代。日本史では、明治維新から第2次世界大戦終結までをさす。
（近代化）
解説なし。

2、言海について

アナログ世代ではないけれども、辞典をよく利用する。国語辞典の場合、大槻文彦『言海』をまずひく。『言海』は日本で最初の国語辞典であることによる。大槻文彦は弘化4年11月15日（1847年12月22日）に江戸で生まれ、昭和3年2月17日に没した。19世紀から20世紀にかけて英米独仏伊などの各国では、国語の統一運動と

大槻文彦『言海』
（ちくま学芸文庫版）

その反映した辞典編纂が進められた。『オックスフォード英語辞典』、『ウエブスター米語辞典』、『エミール仏言辞典』、『グリム独語辞典』などがその例である。『言海』はそうした世界的流れのなかで編纂された。国民国家の成熟のなかで、あるいは国民国家形成のために国語の統一とその道具として辞典の必要性を各国は認識したのである。『言海』も対外的には文明国家としての姿を示すために、対内的には国民国家として紐帯確保のために、その編纂は必須の課題であった。

『言海』は簡単には完成しなかった。明治7年（1875年）、文部省報告課長・西村茂樹は大槻に国語辞書の編纂を命じ、同19年（1886年）に大槻は完成させた。文部省から出版予定であったが予算不足のため、結局、明治24年（1891年）に自費出版された。この間の事情については、高田宏『言葉の海へ』（新潮社　昭和53年）を参照のこと（同書はのちに、新潮文庫、岩波同時代ライブラリーとしても刊行）。

『言海』には発行直後から各種の批判があった。しかし、完成度は高く、その後の国語辞典の範例的位置を占

める。明解国語辞典、新明解国語辞典の語釈にそれは端的にあらわれている。

3、国語辞典の個性

『言海』刊行から90年の歳月がすぎた。上記のように現在でも影響力を保持している。同時に、各種の辞書の特徴も浮き彫りになってくる。「近代化」についての「新解さん」の解説は「新解さん」のスタンスが十分に示されている。「近代化」を説明していない辞典も少なくないが、説明しないことによって自己の立場を示している。

近代を、明治維新から第2次世界大戦終結までとする点については、どの辞典も一致している。そのさい、「日本の場合」という限定がある点に注意しときたい。「近代」は時期区分にかかわる言語で、時期区分は国によって異なる。

【ひらおか・ゆうへい／八代市】

前回の字習の答え

①、「鮎」帰川
②、川「蟬」
③、薩摩川「内」
④、河漢「女」
⑤、銀河「鉄」道
⑥、百年俟河「清」
⑦、「揚」子江
⑧、江「湖」之人

★球磨川支流のひとつ。油谷川の別名。
★翡翠の別名
★地名
★織姫の別名
★宮沢賢治
★格言
★中国の大河
★民間人の別名

「疑わしきは罰せず」を疑う

上村雄一

コンピューターという小さい機械に人間が翻弄されている。最高の知的ゲームである将棋界が象徴的例である。

数年前まで、将棋棋士がコンピューターに敗北するとは殆どの者は予想していなかった。予想する者でも遠い将来の話であると考えていた。現実は、ちがった。ソフトの開発速度は著しく、トップ棋士が敗北するまでになった。それどころか、対局中にソフトを利用している棋士がいるのではないかとの疑惑事件が発生した。対局終盤での離席が多い、ソフトと類似の指し手を採用している、感想戦での発言が不自然であるなどの理由から、その棋士は不正を働いているのではないかとの意見が将棋連盟に集まった。

連盟は第一人者・羽生善治をふくめて当該棋士の実践例（棋譜）を調べ、最終的に、その棋士に対して棋戦への出場停止を命じた。これは仮の処分で、第三者で構成する委員会が当該棋士の疑惑を調べ「不正の証拠はない」とする報告を出した。この報告を受け、将棋連盟の谷川浩司会長、島朗常務理事の両名は責任をとり辞任した。谷川浩司は「光速の寄せ」の谷川であり、島朗は「伝説の島研」の主催者である。谷川のあとの会長には佐藤康光九段が就いた。

調査委員会は上記のように「不正の証拠はない」と結論づけた（それゆえ、谷川・島は辞任した）が、「不正をしていない」とは言ってはいない。「疑わしきは罰せず」という。しかし、これは刑事事件の原則であって、将棋の世界のルールではない。将棋の世界は、そもそも、棋士が不正をするという思考が生まれる余地のない領域であった。対局中の棋士こそ最高の読み手で、離席して、別の棋士に指し手を相談することなどありえなかった。棋士はひたすら読みふける存在であった。「疑わしきは罰せず」は将棋の世界にない言葉である。

将棋の世界を少しでも知っている者からすれば、「疑わしきは罰する」が

将棋界にはふさわしい。コンピューターの不正利用の「疑わしき」はそうである。人間の指し手とコンピューターの指し手は根本的にちがう。同一ルールでの対局であるにもかかわらず、両者の「思考回路」がちがうため指し手もちがってくる。裏からいえば、将棋の世界はそれだけ奥が深いということでもある。コンピューターが棋士にとって予測不可能な手を指しているという以上、そういう結論になる。将棋の手順は概ね定まっている（定石化している）と考えがちだが、そうではない。指し手をまちがわないからコンピューターが棋士に勝っているのではない（そういう側面が皆無というわけではないが）。現時点では、コンピューターの「思考」方法に棋士が慣れていない、そのためコンピューターに敗北しているのだ。

問題の棋士は重要局面で離席し人間の思考にない手を指した。そして羽生善治をはじめとするトップ棋士が「疑わしい」と判断したのだった。その「疑わしさ」は刑事事件の立証方法で説明できない。

三つの課題がある。第一は、不正防止策の設定である。性善説でなく性悪説に基づき棋士は不正をするとの観点に立てば防止策は比較的簡単にできる。一部の棋士はそれに反発するだろうけど、「疑い」は払拭しなければならない。第二は、棋士という職業をどうみるのかという問題にかかわる。思考様式がちがうとはいえ、同一のルールでの対局で将棋棋士たちは敗北しているのである。将棋は人間が指すから面白いという側面は確かにある。けれども、勝敗の一点に注目するときコンピューターの性能を無視できない。新手の探求に棋士の存在意義のひとつがあった。新手といっても人間の思考の延長から発生しているので、棋士にとり新手は称賛の対象になりえても驚愕すべきことではなかった。コンピューターはちがう。

棋士のなかには、将棋は衰退していく職業であるとみている者もいるようだ。しかしながら、第三に、以上はあくまでも将棋の世界の話題にすぎない。これを思考一般の領域に論点を拡大してみると恐ろしくなる。人間とはちがう「思考」をコンピューターは実行しているのである。結論がよければいいのではない。人間にとっては、結論でなく、プロセスが大切だ。結論にいたるまでのプロセスを理解できるから、人間は生きていける。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】

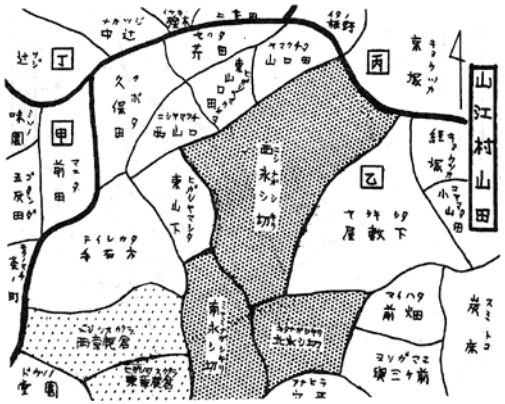
復刻掲載

字図で見る球磨の地名 ⑩ 上村重次

永シ切（ナガシキリ）

—山江村山田乙—

山江村山田乙の永シ切は、西・南・北の3字名に分かれ、東永シ切はない。西永シ切の西側は東山下（ヒガシヤマシタ）で西山下という小字はない。南永シ切と北永シ切の方角は合わない。これらの矛盾点からみて、永シ切付近は境界の改変があったことが想定されるが、その時代や変更内容などは知るすべもない。しかしながら、永シ切という地名の意味考察に支障するほどのことはなさそうである。



『日本地名索引』（五万分一地図地名の集成）や『大和地名大辞典』（奈良県の字名索引）を見ても永シ切という地名は出ていない。シキリ地名として見ると奈良県添上郡大柳生村字シギリ谷（現奈良市）があるもののカナ書きであるため意味追究の手がかりが得られない。

【おことわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版です。市町村合併前の地名となっていますが、ご了承ください。

熊本県内の町村小字では上益城郡清和村鶴ケ田宇山志喜利（ヤマシキリ）、同村貫原宇山仕切（ヤマシキリ）、天草郡新和町大多尾字仕切（シキリ）があり、いずれもムラ境の地名である。山江村山田乙の永シ切も山田丙との境に位置するところから、シ切や志喜利は仕切のこととわかる。『大言海』には

しきる　仕切（せぎるの転）①間を隔つ、限りをなす。限隔　②帳面の勘定を締切りて数える　③相撲で体を構えて技にかかる。

と書いてある。相撲の構えと仕切は同義語の可能性もあろう。地名の視

前（シギノマエ）はムラ境を挟んで向かい合う点から仕切地名の変化形であろう。

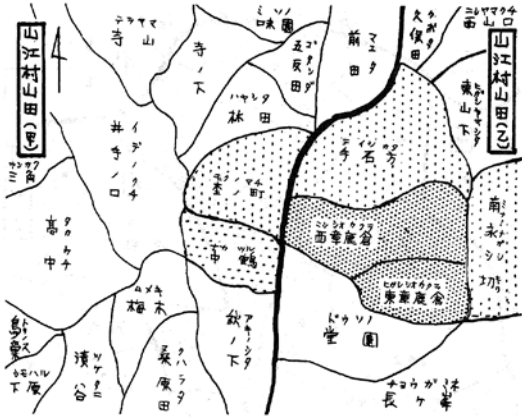
山江村山田乙の永シ切に隣り合う東・西章鹿倉（シオカクラ）は表記文字ではわかりにくいが〝章〟を〝障〟と見れば戸障子のことで、地名用語としては仕切（境界）の表現となる。球磨地域には鹿倉地名が多く、一般には狩倉の意で説明されるが、地名のカクラは区域のことである。

章鹿倉（シオカグラ）

―山江村山田乙―

明治前期の町村小字調査書によると球磨郡の一町村当たり字数は九十八件余りで県平均の約三倍ということは、このシリーズの①で述べた。旧山田村の字数は百八十四件で、郡平均の二倍、県平均の六倍に当たる。

山江村は明治二十二年の町村制施行の際、旧山田村と旧万江村が合併し、旧村名の一字ずつをとって村名を合成した。旧村名は大字名として残っているが、それぞれの大字には甲・乙・丙・丁などの区分があり、その下に



点に立てば、構えも仕切も境界線（仕切線）を越えてはならないことであり、シキリのキリは限の標徴になっている。

県郡市町村大字小字というように国土は余さず区域で仕切られているにもかかわらず、シキリ地名は少ない。これは境界表現のシキリが別語で言い換えられているからである。例えば家の間取の敷居は閾（しきみ）の転化で、敷限の意という（『大言海』）から仕切と同じ。敷居にはカモイ（鴨柄、鴨居）を伴うが、これも構にちなむ語のように思われる。

地名に用いられる敷は占（し）むる所の意が多い。敷地、屋敷などは仕切地のことである。このシキ（敷）には種々雑多の漢字が当てられ、姿を変えたシキ地名が実在する。多良木町鳴村（シギムラ）、同久米字鳴ノ小字がある。字図に甲・乙・丙…の区分線を入れているのは山江村と球磨村がある。

甲・乙…区分の基準や設定年代については未詳であるが、古い時代のムラ区域が甲・乙・丙…などの中字域になっているようにも思われる。建久二年（１１９１）の良峯師高所領譲状案（平河文書）には黒田之村（現免田町黒田付近）三十九町五反とあるのに対し、山田之村四十町一反となっていて現在の山江村大字山田の田地に比べて少なすぎる。鎌倉時代の山田之村は旧山田村の中の一区域の村名だったのではなかろうか。

中字区域の甲・乙…区分にこだわるのは、章鹿倉を境界地名と推定するからである。字図によると山田乙字東・西章鹿倉に分かれ、西章鹿倉は山田甲字李ノ町（モクノマチ）と境界を分け合っている。

前回は章鹿倉の〝章〟を〝障〟の当て字とみて、区域の仕切（境界）と考えたが、漢字の章には①あきらか（明）②あらわす（彰、表）③印章④文章・区切⑤分かち（区分）などの意があり、地名用語としては④⑤に相当する。即ち土地区域の区分としては山田甲と山田乙の境界ということになる。

現在の行政区分で山田甲という地域は、例えば味園村とか林田村というようなムラが、また山田乙は堂園村のようなムラ（小村かもしれない）があったことも想定される。境界の別表現である仕切地名（永シ切）や章地名（章鹿倉）が山田乙に隣り合って現存する事実は、古い時代のムラ堺の改変を物語っているように思えてならない。

西章鹿倉の北側にある字手石方（テイシカタ）は村役場近くの県道に面し「手石方」というバス停もある。この地名の意味は境石の別名である戸石（砥石と書く例が多い）が転化したのかもしれない。〝方〟は所の意であるから〝境石のある所〟の意と解釈される。

また、西章鹿倉に西隣する山田甲字李ノ町（モクノマチ）の〝李〟は向（ムコ・ムキ・ムク）の当て字で、〝町〟は区（まちまちは区々と書く）のことだから、向田とか向野と同類であり、「境地の向こう」の表現であろう。鹿倉については項を改めて考えたい。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

山に行こうよ！ その❹

「人吉球磨ハイキングクラブ」通信より

2017年1月25日（水）
天候：晴れ
参加者：11名

二ノ岳（685 m）～三ノ岳（681 m）
熊本市

360度のパノラマに感激

7時30分に人吉市土地改良区駐車場から、車3台に分乗して出発。高速道路を御船ＩＣで降り、浜線バイパス経由で、左手に金峰山を見ながら野出公民館に到着。公民館奥の「二ノ岳登山駐車場」に車を置いて登山準備。

10時25分、公民館の道向いにある道標「二ノ岳登山道春日神社コース」の狭い道から歩き始める。5分登ると正面に春日神社の赤い鳥居。鳥居前を右折し数分すると九州自然歩道の道標があり**10時35分**、ここから本格的に登り始める。枯れ木の階段の登りが続き、愚痴と汗が噴き出てくる。

10時55分、「足元注意　階段がつづきます」「河内クロスカントリーコース」の道標と「火の用心」と書いた大きな横断幕が張られた林道に着き、服の調整・休憩。林道を横切って階段を5分ほど登ると「胸突き八丁の坂長さ80ｍタイム3分」の道標があり覚悟して登るが、「階段より楽」の声が飛び交う。小さな石の祠があり、視界が開け、**11時25分**、二ノ岳山頂に到着。金峰山・三ノ岳・有明海と広い干拓地、遠くは雲仙普賢岳・阿蘇山もよく見える。

晴天で360度の展望に感激、思い思いの写真と全員の写真を撮る。

11時30分、二ノ岳山頂を出発し、杉とアオキの林の中を枯れ葉道や階段をひたすら下る。アオキは子供の頃ヤマタケと呼び、牛の餌にするため刈りに行かされたとの話。

12時5分、舗装された三ノ岳林道に出る。三叉路に「火の用心」の横断幕と「九州自然歩道」の道標があり、「足元注意　階段がつづきます」を見て20分ほど登ると岩場に変わる。木陰は気温が低い様で霜柱や枯葉の下の岩石肌は凍っている。

12時35分、三ノ岳山頂に到着。晴天だが木のベンチや地表の木陰部分には霜柱と雪が残っている。山頂標識に取り付けられた温度計は日差しを浴びながらも4度。

山頂標識の奥の木立の中に三角点と大きなケルンの上に山頂の標識。右下の石塔群は最近祭事があった様子。二ノ岳を始め素晴らしい展望に感激しながら、日当たりに座り昼食。

三ノ岳山頂にて記念撮影

13時25分、二ノ岳下山開始。

14時30分、二ノ岳登山道と林道の交差点（登山時衣服調整・休憩）に着く。**14時45分**、「登山おつかれさまでした野出集落」の石柱（「二岳・三岳・聖徳寺登り口」の裏側）。集落の中を金峰山を眺めながら下り、**14時50分**、「二ノ岳登山駐車場」に到着。

行きは御船ＩＣを降りてから一時先頭車を見失ったが、文明の利器である携帯電話のお陰で無事3台一緒に行くことができた。時間は全行程ほぼ計画通りだった。階段の登山道は大変だったが、晴天に恵まれ山頂の360度の展望に感激し、楽しい山行ができた。

【瀬谷よう子】

くまがわ学習塾　②

問１、夏目漱石は熊本第五高等学校に赴任している。次のうち正しいものを選べ。

①校長として
②国文学の教師として
③ドイツ語の教師として
④漢文教師として
⑤英語教師として

問２、次の計算式を解け

↗ × ↗ × ↗＝ 27
☎ × ☎ × ☎ × ↗＝ 24
↗ × ☎ × ☆ × ☆＝ 96
☆ ＋ ☎ ×↗＝?

問３、次の（　　）を埋めよ。

①球泉洞駅の以前の駅名は（　　）駅である。
②日本三大急流は、球磨川、（　　）川、富士川である。
③彦一は、現在の八代市（　　）町に住んでいたと伝えられている。
④瀬戸石ダムは、球磨村と（　　）の間にある。
⑤鉄漿は、（　　）のことである。

問４、次の地名にふりがなをつけよ。

１、上蔀　（　　）
２、合戦峯　（　　）
３、蛇籠　（　　）
４、馬廻　（　　）
５、楮木　（　　）

問５、次の文章で正しいものはどれか。

１、賃金が上昇しているときには、国民年金は下がらない。
２、アメリカ合衆国の裁判所は違憲立法審査権を有しない。
３、EU の本部はベルリンにある。
４、アフリカ大陸でオリンピックが開催されたことはない。
５、ロンドンには市長はいない。
６、南スーダンはスーダン共和国の一部である。
７、公民館の業務は条例で定めるとされている。
８、僧侶に対して、お経をあげるように法的に強制できない。
９、アメリカ合衆国の初代大統領のワシントンは就任演説をしていない。
10、夏目漱石は国語辞典を１冊ももっていなかった。

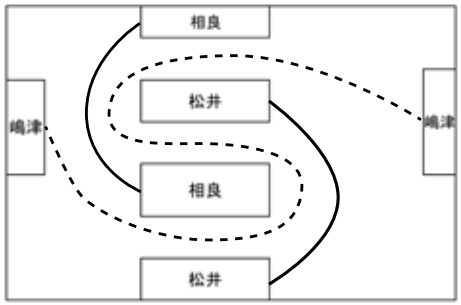
問６、以下は球磨川の瀬の名前である。読みをかけ。

１、筌の瀬　（　　）
２、高音の瀬（　　）
３、小石の瀬（　　）
４、綱繰の瀬（　　）
５、箙瀬　（　　）

※答え合わせは次号でおこないます

前回の答え

問１　相良、松井、嶋津の三者を交わらないようそれぞれに線でつなげ。



問２（　　）を埋めよ。

１、鶴之湯
２、相良村
３、球磨村
４、ツクールバス
５、鎌瀬駅

問３　○か×か。

１○、２×、３○、４○、５○

問４、次の地名にふりがなをつけよ。

１、神瀬（こうのせ）
２、枳俣（ゲズノマタ）
３、高田辺（こうだべ）
４、栴檀（せんだん）
５、向淋（むかいそそぎ）

話題を追って

専門家を招きシンポジウム

人吉市でヤマセミの勉強会

人吉市が第二の市の鳥に追加指定を検討している「ヤマセミ」の生態と魅力について学ぶ、専門家を招いた講演会とシンポジウムが1月31日夜、同市の東西コミセンで開かれた。ひとよし未来会議「やませみの魅力を学び語る会」と題して開催したもので、市民約70人が出席した。

松岡隼人市長が経緯を交えあいさつしたあと、ヤマセミ生態研究家の新庄俊郎さんが「やませみの魅力」と題して講演。ヤマセミの写真集を数冊出版している新庄さんは、人吉市に何度も通って撮影した写真を紹介しながら「通常は朝と夕方、繁殖期は昼間も飛ぶが、警戒心が強く、市街地で見られることは稀」などと、生態を詳しく解説した。

ヤマセミの魅力を語る新庄さん

後半のシンポジウムでは、高野茂樹氏（日本野鳥の会熊本県支部長）、貫名功二氏（国土交通省八代河川国道事務所長）、中神寿一氏（人吉温泉観光協会事務局長）、新庄さん、松岡市長ら5人のパネリストによる「やませみを活かしたまちづくり」をテーマに討議。地元の住人と共に生活している球磨川のヤマセミは貴重であり、地元の自然をアピールできる好機であることを確認した。

来場者からは「カワセミを市鳥とする八代市との連携を」、「ヤマセミの存在を知らない市民に周知する工夫を」などの意見が出された。

報告会では事務局長の一柳英隆氏が、相良村の湿地での希少生物の生態や生息数になどを報告。ミズカマキリやゲンゴロウなどの希少な水生昆虫、魚、トンボ、カエルなどが確実に増えていることを報告し、参加者の興味をひいた。

意見交換会では、住民や行政も協力して環境の保存できるシステムを作り、相良村の魅力を発信できるようしたいとの意見が相次いだ。

希少な動植物の生態を報告

球磨湿地研究会

希少な動植物が生息する湿地の調査・保存をめざす「球磨湿地研究会」（宮川続代表）の報告会が1月28日、相良村の松葉公民館で開かれた（写真左頁上）。

同会は球磨郡を中心に湿地の生態系や生物の調査研究をおこなう有志によって結成された団体で、大学生や同会のメンバーが田んぼなどの地権者の協力を得て球磨郡内の湿地やそこに住む生き物の保全活動を行ってきた。

報告会では事務局長の一柳

幸野溝・百太郎を学ぶ

3月に啓発イベント

昨年11月に「世界かんがい施設遺産」に登録された幸野溝と百太郎溝の歴史と今を学ぶイベント「世界かんがい施設遺産　幸野溝・百太郎溝を学ぶ」が3月25日、両施設の見学を中心に開催される。

この企画は「くまもと里モンプロジェクト」の一環として行われるもので、水路の重要性を学び、地元の農産物をピーアールするもの。詳細は次号で。

山頭火の魅力の秘密を解きながら共に仏教を考える

岐部明廣 著
絵／坂本福治

「人吉・球磨山頭火の会」会員でもある著者が、放浪の俳人・種田山頭火の生き様を熱く語った一冊。

■四六判／上製本／144頁
■定価1,080円（税込）
送料200円

直販の申込は
〒868-0086　熊本県人吉市下原田町瓜生田675-3
TEL・FAX0966-22-7601　info@hitoyoshi.co.jp
人吉中央出版社

編集後記

今月はいくつかの媒体からの取材を受けた。受けてみると勉強になることがあった。取材を受ける方はどうやって気に入ってもらうか、あれこれ考えるものらしい。決して嬉しいばかりではないことを知る。何事も体験と考え恥をさらした次第であるが、取材する方々の熱い思いも知ることができた。★来月から運行を始める「かわせみ　やませみ」にちなみ「くまがわ野鳥だより」の連載をスタートさせた。撮影者は球磨村渡に住むアマチュア写真家の小川一弥さん。趣味で始めた写真ではあるが、その情熱たるや頭が下がるものがある。テントをいくつも自作し、野鳥に気づかれないように細心の注意を払っての撮影の成果は、グラビアページのとおりである。★本年度中に撤去工事が終わる荒瀬ダムの経過報告に多くの頁をさいた。撤去により川の再生が実感できる内容で、そこで遊ぶ子供も戻ってきているとの嬉しい報告。今後も環境の変化と問題点に注目していきたい。（ま）

〒868―0086
熊本県人吉市下原田町瓜生田675―3
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hitoyoshi.co.jp
電話・ファックス 0966・22・7601

【購読者の皆様へ】講読料を未納の方のみ偶数月に「郵便振替用紙」をお送りしています。払い込み号数を確認のうえ、ご送金ください。

インフォメーション

開催中
▽「人吉球磨は、ひなまつり」（人吉球磨地域一帯、～3月20日）
▽冬季特別展覧会「笠鉾大解剖Ⅱ～しゃれた町印・本蝶蕪～」（～3月20日、八代市立未来の森ミュージアム）

18日（土）
▽第17回人吉ふれあい100円商店街（人吉市中心市街地）
▽白いキャンバスハッピー祭（人吉市二日町同施設）
▽第1回にしき産業フェスタ（～19日、錦町役場前広場）
▽田舎の交流館さんがうら「そばカフェ」「竹灯籠のタベ」（球磨村さんがうら）

19日（日）
▽第14回ひとよし春風マラソン（人吉城跡ふるさと歴史の広場）

23日（木）
▽人吉市商工会議所まちづくりセミナー（同会議所）

24日（金）
▽ひとよし・くま市民劇場例会「いとしのベイビ～」（人吉市カルチャーパレス）

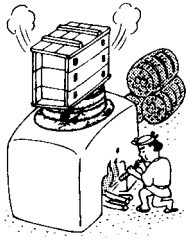
25日（土）
▽人吉市高齢者作品展（～26日、イスミ本店地階イベントホール）
▽人吉市東西コミセン短期講座「人権教育講演会」（同コミセン）
▽ひとよしくまこども劇場例会「なかむらたかおひとり人形劇」（山江村農村環境改善センター）

26日（日）
▽第43回人吉梅まつり（大畑町人吉梅園）
あさぎり町芸術祭「ステージ発表」（須恵文化ホール）

28日（火）
日本遺産人吉球磨シンポジウム「世界へ、未来へ」（人吉市カルチャーパレス）

3月4日（土）
▽八代市「どんかちゃんスペシャルおはなし会」（かがみ図書館）

TAKEDA Eye Clinic
たけだ眼科クリニック
院　長 竹田 憲司
人吉市南泉田町39　☎23-3096
めがね・コンタクトレンズの
アイ ウェア槇（まき）
（たけだ眼科ビル内）☎0966-23-3097
デイサービスセンター
ケアプラン作成所いずみ
（居宅介護支援事業所）
いずみ
協力医療機関 たけだ眼科クリニック
人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

匠の技

御膳醤油
（だし入り万能しょうゆ）

・玉子かけご飯
・豆腐
・お刺身に
300ml 650円（税抜）

◆みそ煎餅
477円（税抜）

◆納豆みそ
477円（税抜）
◆納豆みそ
（お徳用）
300円（税抜）

人吉散策コース 九州自然 蔵めぐり
みそ・しょうゆ蔵
資金会社 マルカマ
釜田醸造所
会長 釜田元嘉
社長 釜田顕
〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話（0966）22－3164
FAX（0966）22－3165
メール info@marukama.co.jp